

第4章 職業関係

1 職業に関する体験的活動

(1) キャリア教育の効果

Q42 実際に働く体験をしたり、起業（自分で企業を立ち上げること）の模擬体験をしたり、企業に勤める人から働くことについての講義を受けたりするなど、学校で行った職業に対する体験的活動は、現在の職業に就く際に（または今後就きたいと考えている職業を選ぶ際に）役に立ちましたか。この中から1つだけ選んでください。（回答は1つ）

※フルタイムで働いている人が対象

Q43 実際に働く体験をしたり、起業（自分で企業を立ち上げること）の模擬体験をしたり、企業に勤める人から働くことについての講義を受けたりするなど、学校で行った職業に関する体験的活動は、今後就きたいと考えている職業を選ぶ際に役に立っていますか。この中から1つだけ選んでください。（回答は1つ）

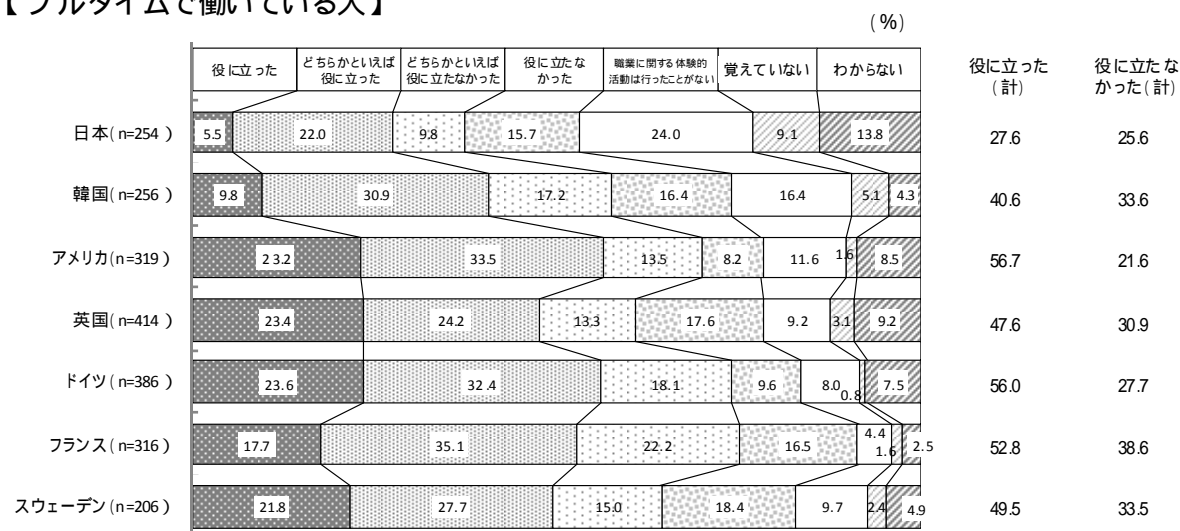
※フルタイムでの就労意向がある人、または希望する職種が決まっている人が対象

日本の若者にキャリア教育の効果について聞いたところ、フルタイムで働いている人では『役に立った』が **27.6%**（「役に立った」**5.5%**＋「どちらかといえば役に立った」**22.0%**），フルタイム以外で今後の就労意向や希望職種がある人では **38.8%**（同 **11.0%**＋**27.8%**）である。

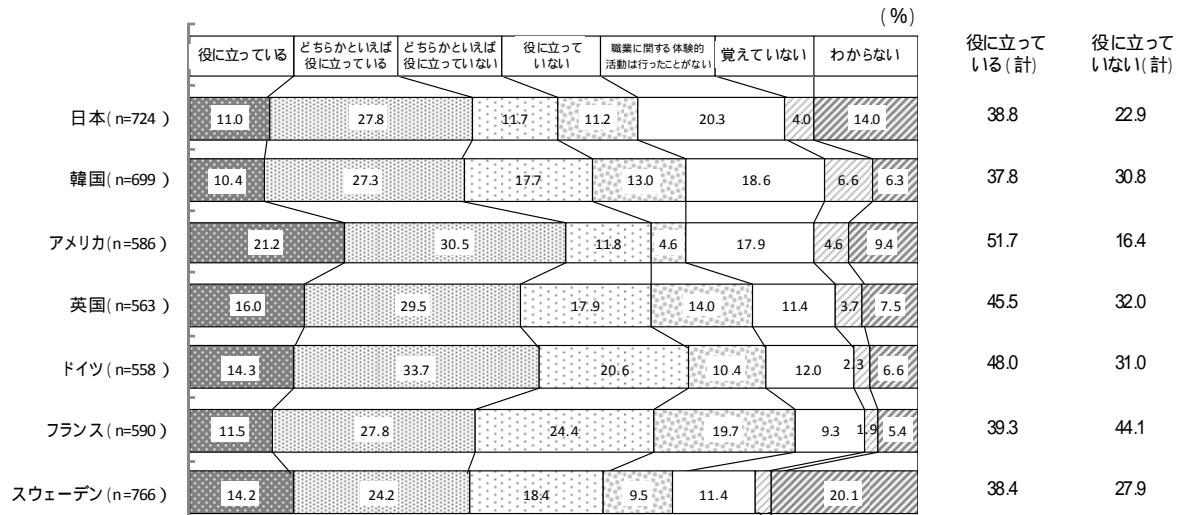
フルタイムで働いている人にとってのキャリア教育の効果をもとに7か国比較で見ると、『役に立った』と回答した人の割合は、アメリカ（**56.7%**）、ドイツ（**56.0%**）、フランス（**52.8%**）、スウェーデン（**49.5%**）、英国（**47.6%**）、韓国（**40.6%**）、日本（**27.6%**）の順となっている。

一方、現在フルタイムで働いていないが、フルタイムでの就労意向がある、または希望する職種が決まっている人で、『役に立っている』（「役に立っている」＋「どちらかといえば役に立っている」）と回答した人の割合は、アメリカ（**51.7%**）、ドイツ（**48.0%**）、英国（**45.5%**）、フランス（**39.3%**）、日本（**38.8%**）、スウェーデン（**38.4%**）、韓国（**37.8%**）の順となっている。

【フルタイムで働いている人】



【フルタイムでの就労意向がある，または希望する職種が決まっている人】

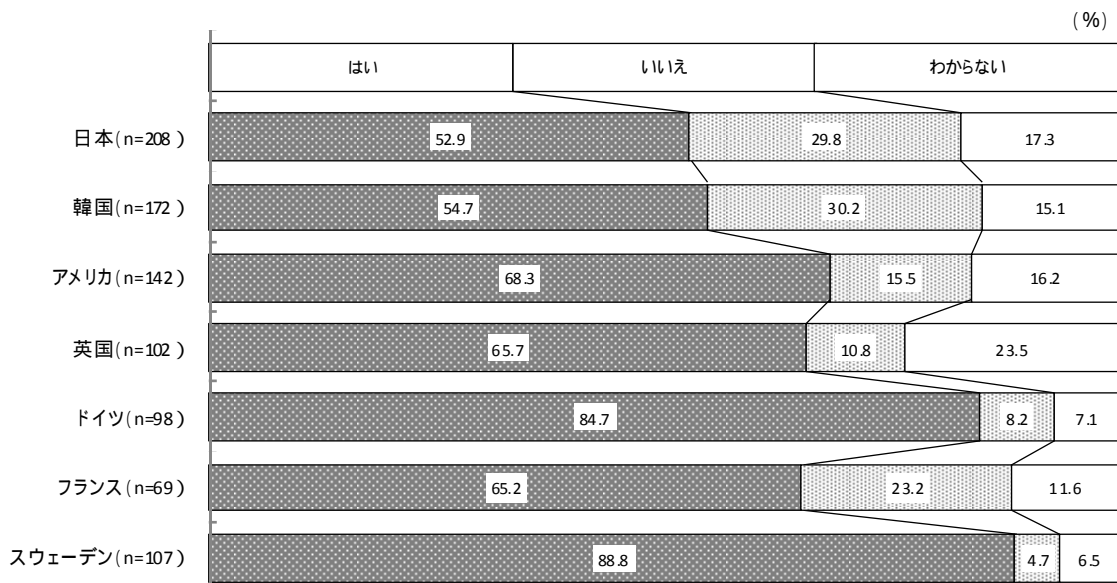


(2) キャリア教育の受講意向

Q44 実際に働く体験をしたり，起業（自分で企業を立ち上げること）の模擬体験をしたり，企業に勤める人から働くことについての講義を受けたりするなどの職業に関する体験的活動を学校で行ってみたい（みたかった）ですか。（回答は1つ）
 ※Q42, 43で「職業に関する体験的活動は行ったことがない」と回答した人が対象

日本の若者で今までキャリア教育を受けたことのない人に，起業の模擬体験をしたり，企業に勤める人から働くことについての講義を受けたりするなどの職業に関する体験的活動を行ってみたい（みたかった）かを聞いたところ，「はい」と回答した人の割合は52.9%である。

7か国比較で見ると，キャリア教育の受講意向（「はい」と回答）は，スウェーデン（88.8%）とドイツ（84.7%）が8割台となっており，アメリカ（68.3%），英国（65.7%），フランス（65.2%）は6割台，韓国（54.7%），日本（52.9%）は5割台となっている。



2 職場生活の満足度

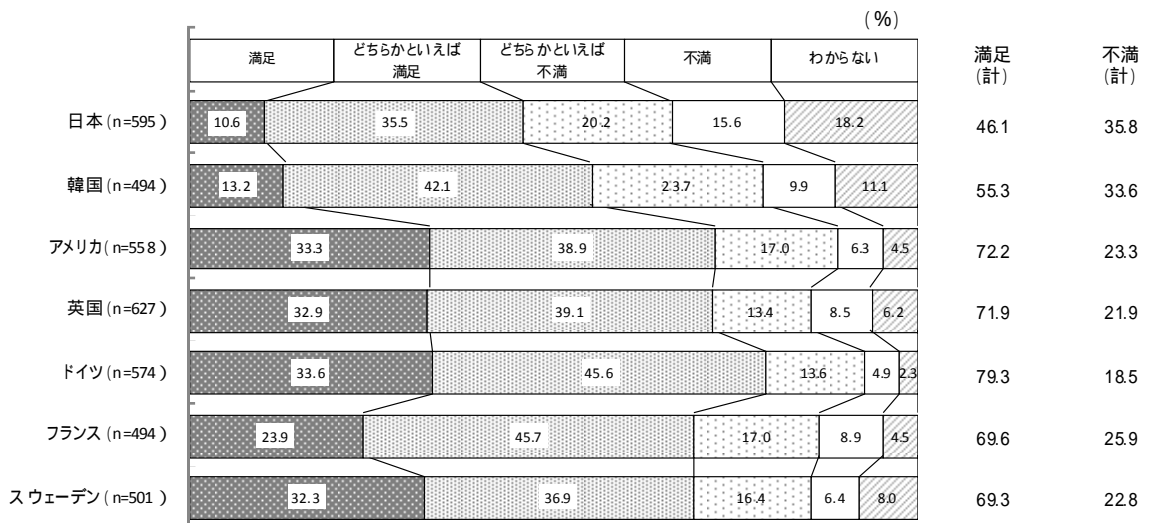
(1) 職場生活の満足度

Q45 あなたは、今の職場に満足していますか。(回答は1つ)

※就労者が対象

日本の若者について職場生活への満足度をみると、職場生活に『満足』が**46.1%**（『満足』**10.6%**＋「どちらかといえば満足」**35.5%**）である。

7か国比較で見ると、日本以外は『満足』が半数を占めており、『満足』と回答した人の割合はドイツ（**79.3%**）が最も高く、アメリカ（**72.2%**）、英国（**71.9%**）、フランス（**69.6%**）、スウェーデン（**69.3%**）、韓国（**55.3%**）、日本（**46.1%**）の順となっている。



3 仕事に対する考え方

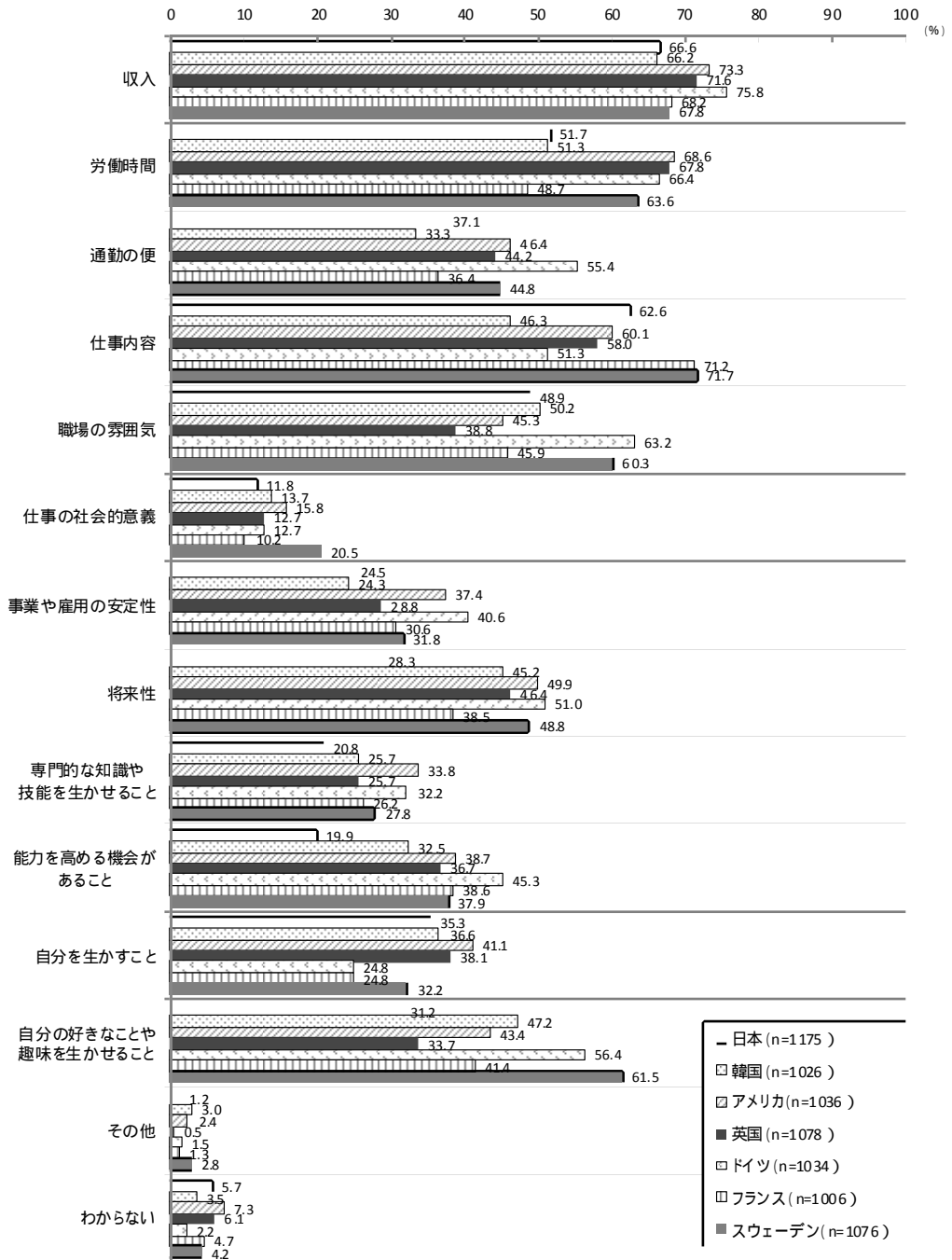
(1) 職業選択の重視点

Q46 仕事を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか。この中からいくつでも選んでください。(回答はいくつでも)

日本の若者が仕事を選ぶ際に重視することとしては、「収入」が**66.6%**で最も高く、以下「仕事内容」(**62.6%**)、「労働時間」(**51.7%**)、「職場の雰囲気」(**48.9%**)、「通勤の便」(**37.1%**)の順となっている。

7か国比較で見ると、日本以外の4か国でも「収入」(韓国**66.2%**、アメリカ**73.3%**、英国**71.6%**、ドイツ**75.8%**)が最も高くなっている。「仕事内容」が最も高いのは、フランス(**71.2%**)、スウェーデン(**71.7%**)である。

韓国、アメリカ、英国、ドイツでは、次いで「労働時間」(韓国**51.3%**、アメリカ**68.6%**、英国**67.8%**、ドイツ**66.4%**)が、フランス及びスウェーデンでは「収入」(フランス**68.2%**、スウェーデン**67.8%**)が、それぞれ高くなっている。



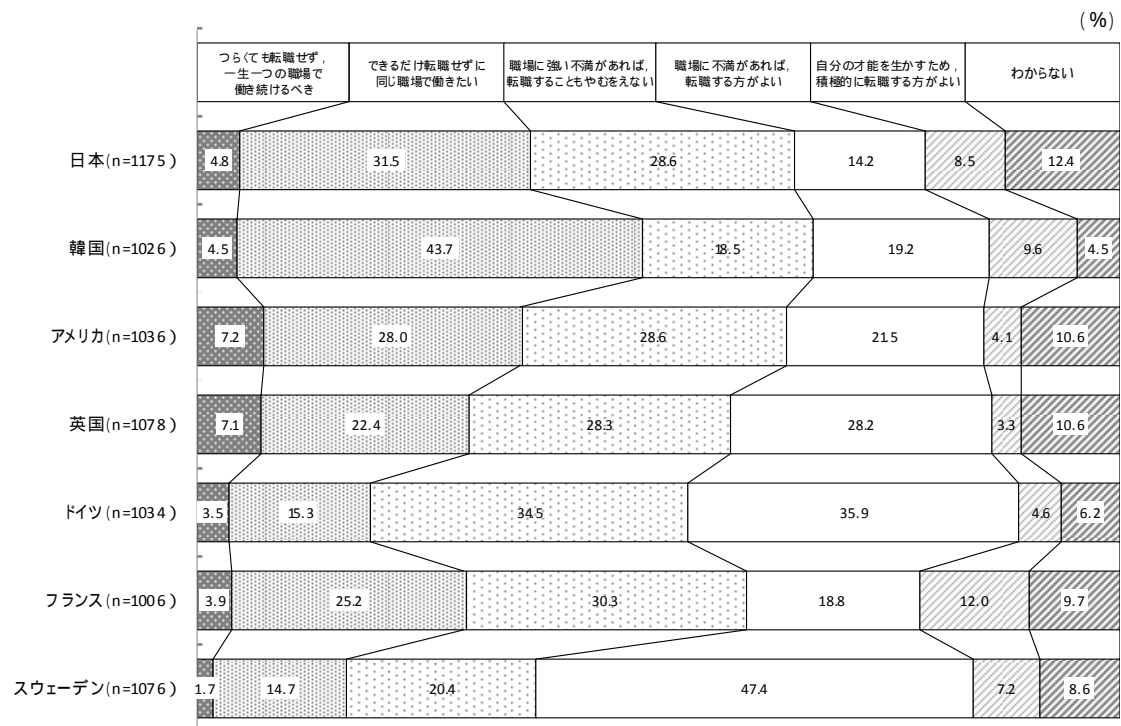
(2) 転職に対する考え方

Q47 転職については、様々な考え方があります。この中から、あなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。(回答は1つ)

日本の若者に転職に対する考え方を聞いたところ、「できるだけ転職せずに同じ職場で働きたい」と回答した人の割合が**31.5%**で最も高く、「職場に強い不満があれば、転職することもやむをえない」が**28.6%**、「職場に不満があれば、転職する方がよい」が**14.2%**となっている。「つらくても転職せず、一生一つの職場で働き続けるべきである」という人は**4.8%**である。

7か国比較で見ると、韓国では、日本と同様に「できるだけ転職せずに同じ職場で働きたい」が**43.7%**で最も高く、日本を約**12**ポイント上回っている。

一方、アメリカ、英国、フランスは「職場に強い不満があれば、転職することもやむをえない」(アメリカ**28.6%**、英国**28.3%**、フランス**30.3%**)、ドイツ、スウェーデンは「職場に不満があれば、転職する方がよい」(ドイツ**35.9%**、スウェーデン**47.4%**)と回答した人の割合が最も高い。



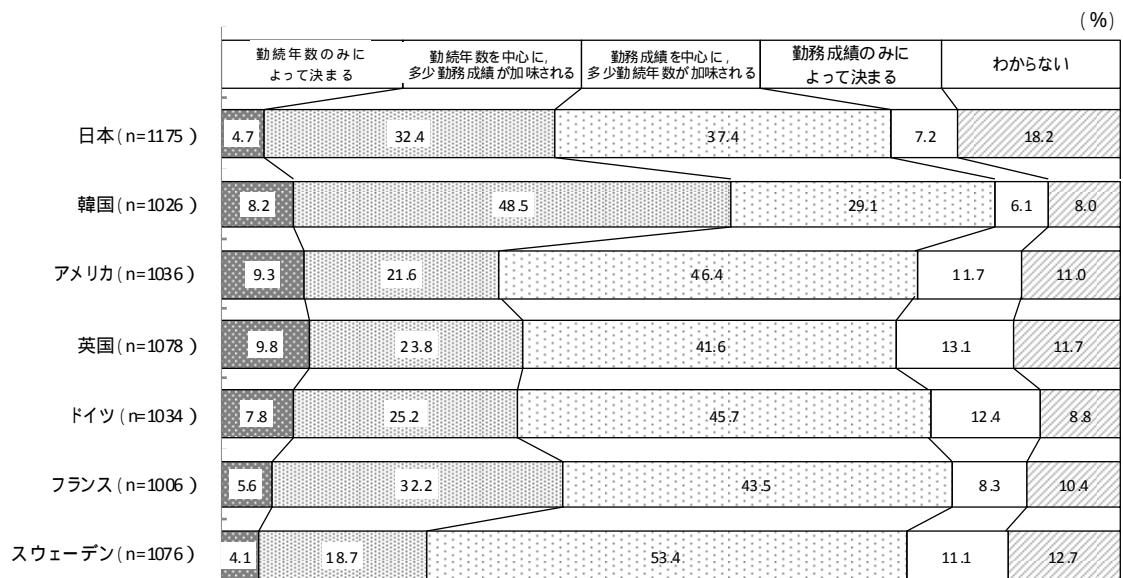
(3) 昇進・昇給の方法

Q48 あなたは、どのような方法で昇進や昇給を決めるのが望ましいと思いますか。この中から1つだけ選んでください。(回答は1つ)

日本の若者に昇進や昇給を決めるのに望ましい方法を聞いたところ、「勤務成績を中心に、多少勤続年数が加味される」(37.4%)と回答した人の割合が最も高く、次いで「勤続年数を中心に、多少勤務成績が加味される」が32.4%である。

7か国比較で見ると、韓国では、「勤続年数を中心に、多少勤務成績が加味される」(48.5%)と回答した人の割合が最も高い。

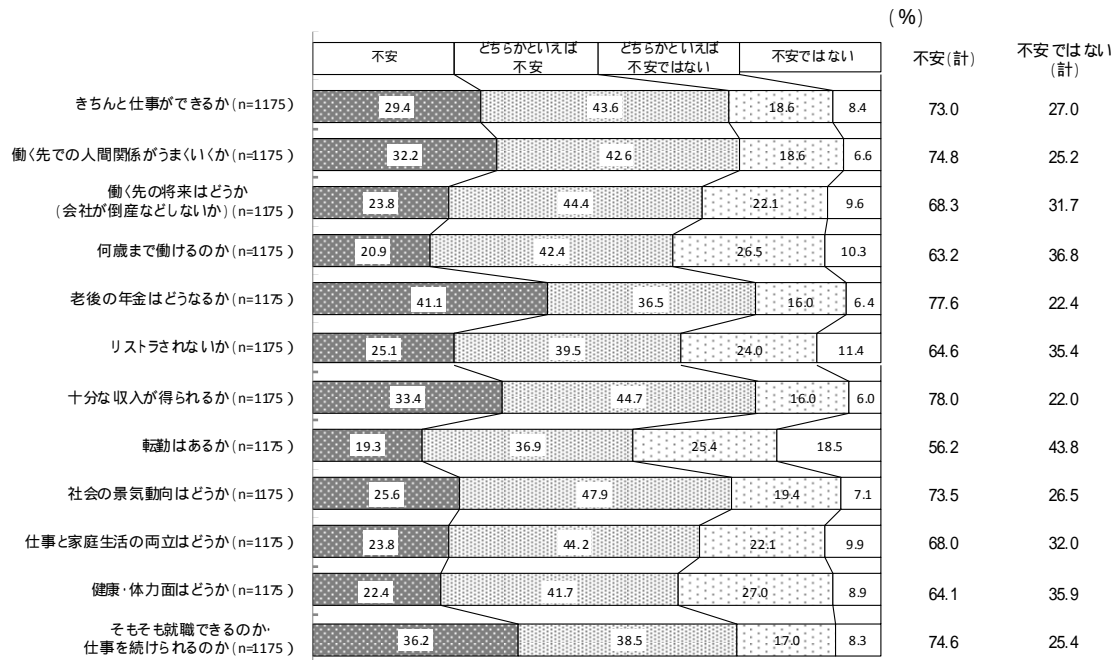
一方、アメリカ、英国、ドイツ、フランス、スウェーデンでは、日本同様に「勤務成績を中心に、多少勤続年数が加味される」(アメリカ46.4%、英国41.6%、ドイツ45.7%、フランス43.5%、スウェーデン53.4%)が最も高くなっている。



(4) 現在または将来の不安

Q49 あなたの働くことに関する現在または将来の不安について伺います。以下のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)

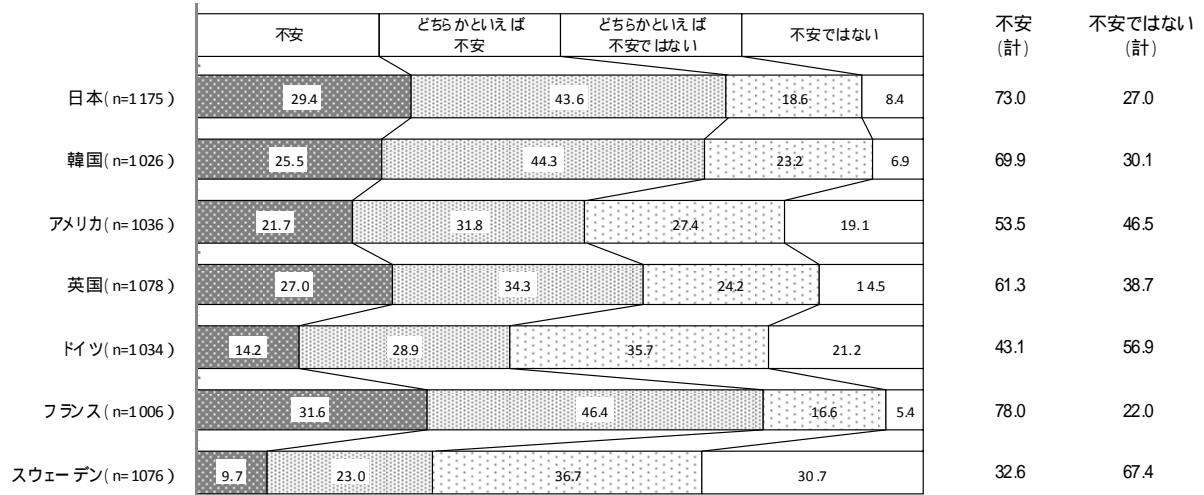
現在または将来の不安について日本の若者に聞いたところ、「十分な収入が得られるか」(78.0%)、「老後の年金はどうなるか」(77.6%)、「働く先での人間関係がうまくいくか」(74.8%)、「そもそも就職できるのか・仕事を続けられるのか」(74.6%)、「社会の景気動向はどうか」(73.5%)、「きちんと仕事ができるか」(73.0%)の6項目は、『不安』(「不安」+「どちらかといえば不安」)が7割以上を占めている。



【国別】

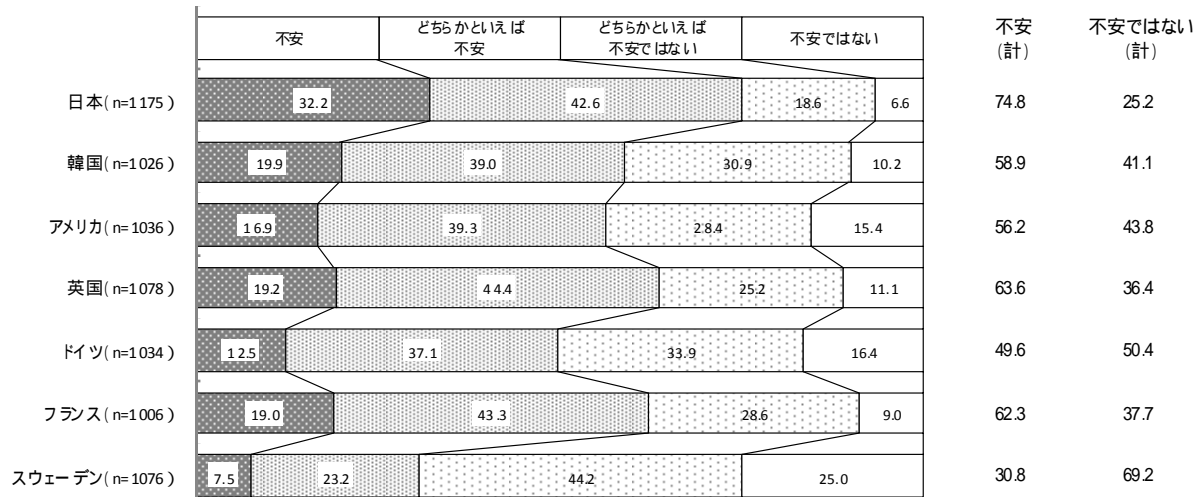
(a) きちんと仕事ができるか

(%)



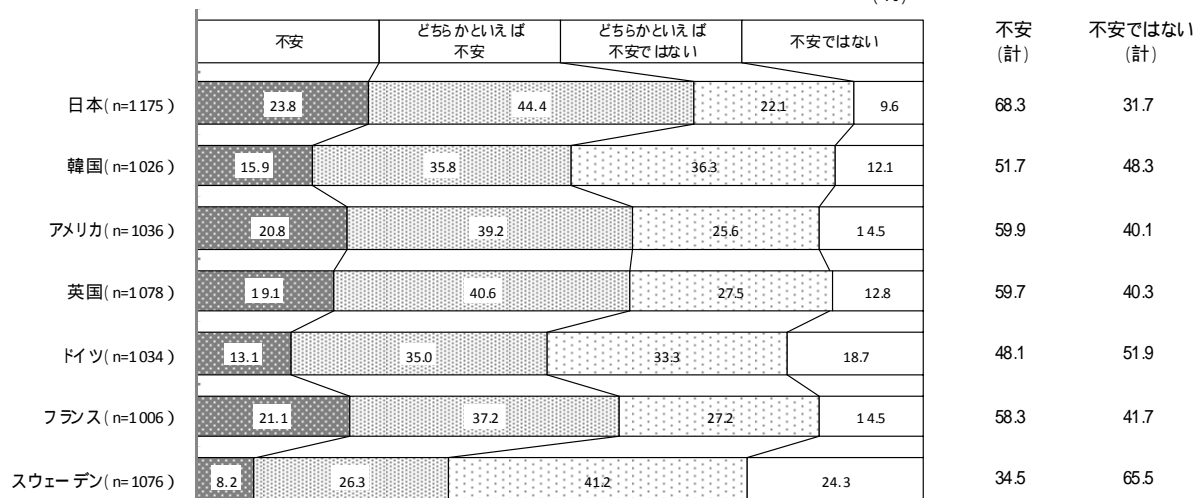
(b) 働く先での人間関係がうまくいくか

(%)



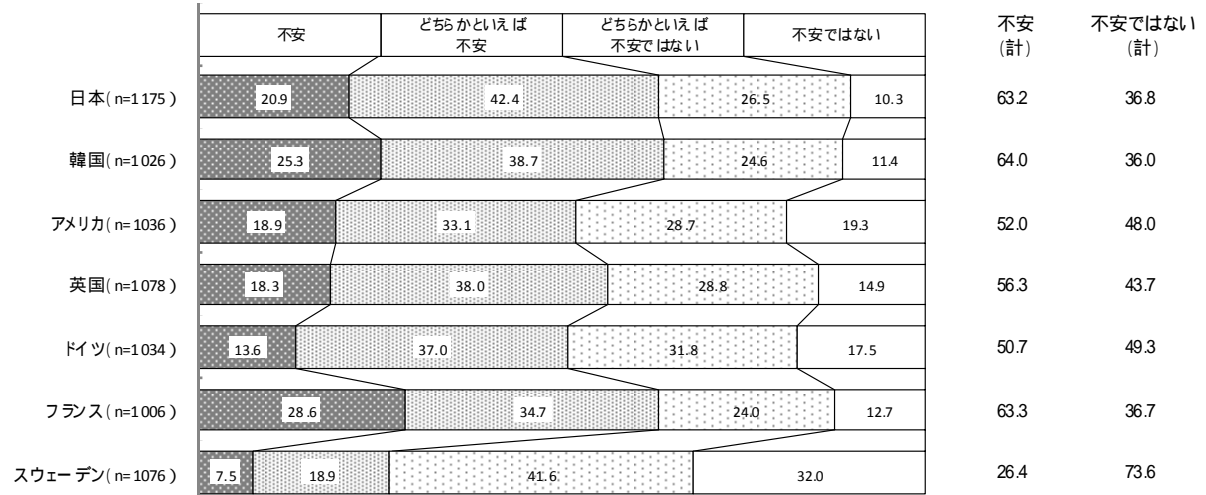
(c) 働く先の将来はどうか(会社が倒産したりしないかなど)

(%)



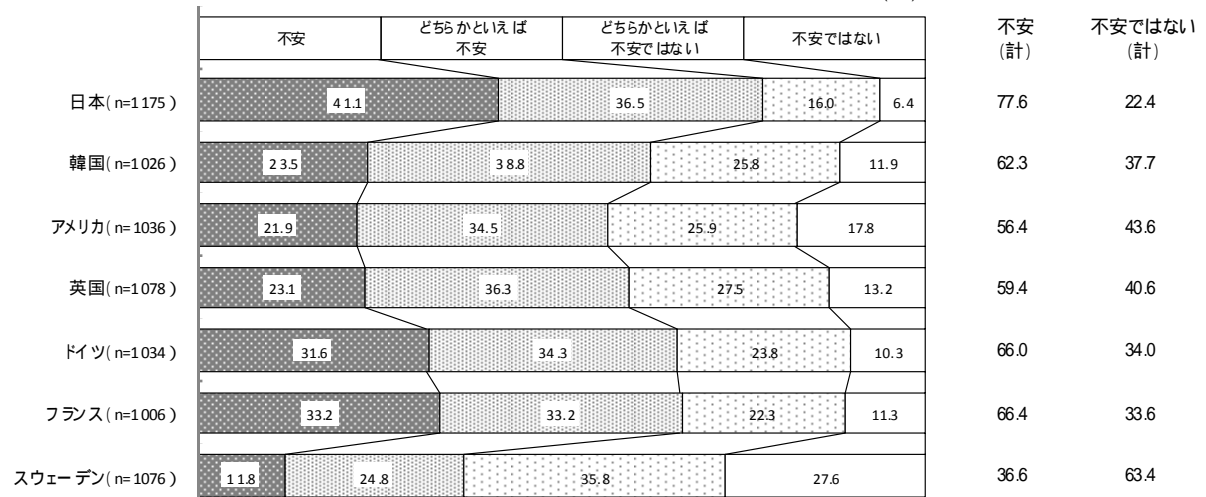
(d) 何歳まで働けるのか

(%)



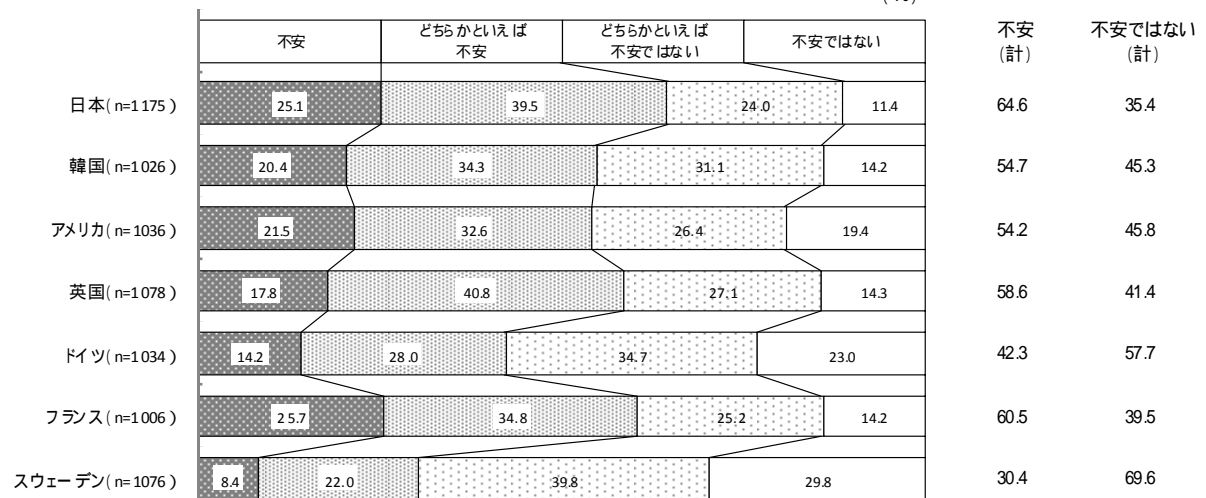
(e) 老後の年金はどうなるか

(%)



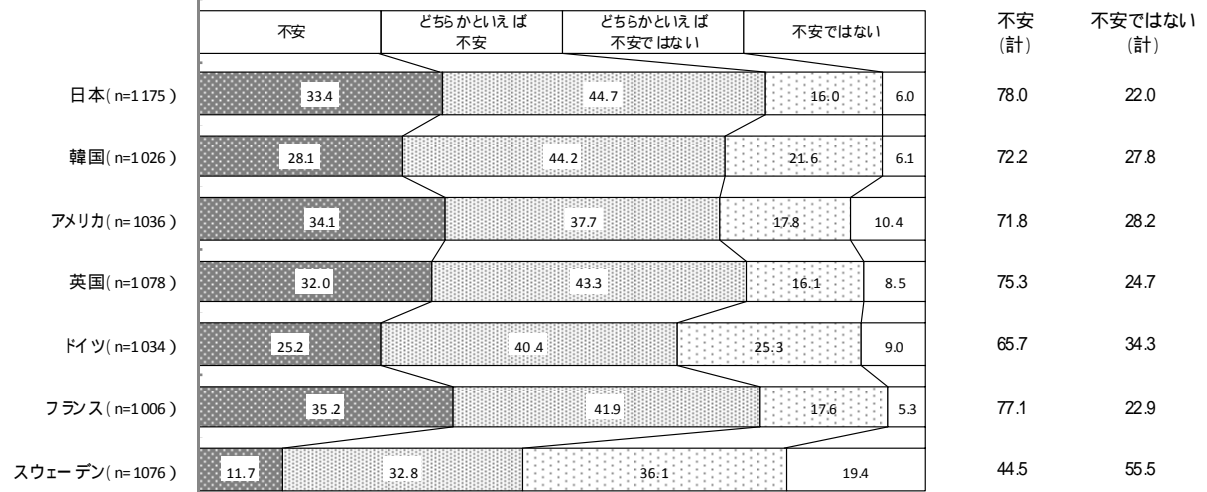
(f) リストラされないか

(%)



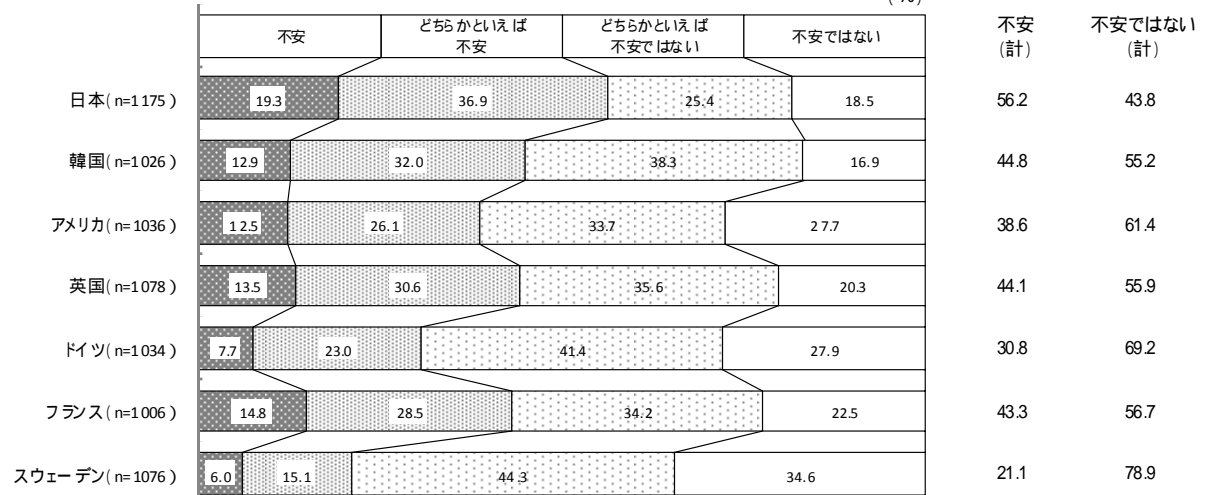
(g) 十分な収入が得られるか

(%)



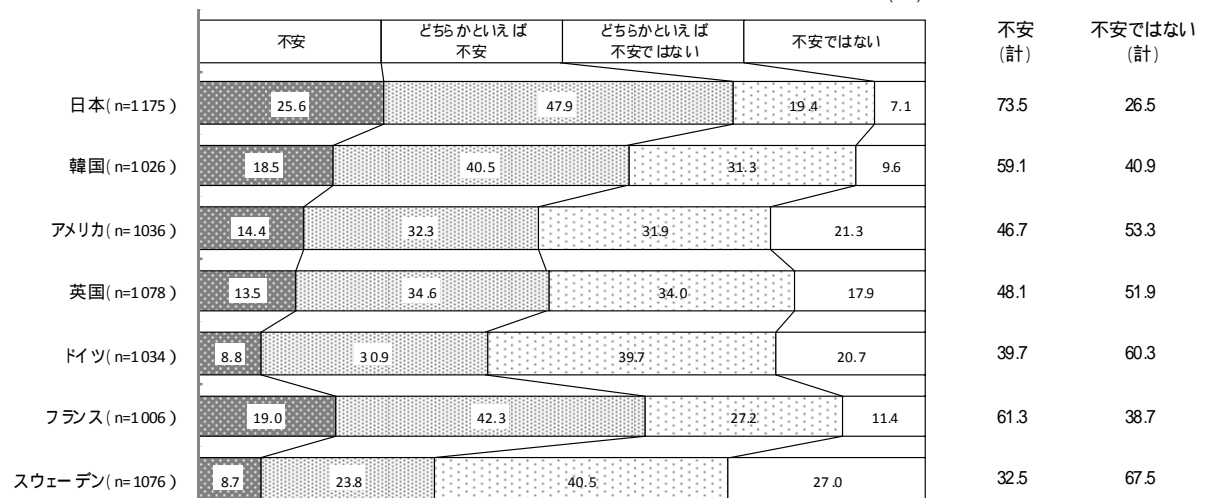
(h) 転職はあるか

(%)



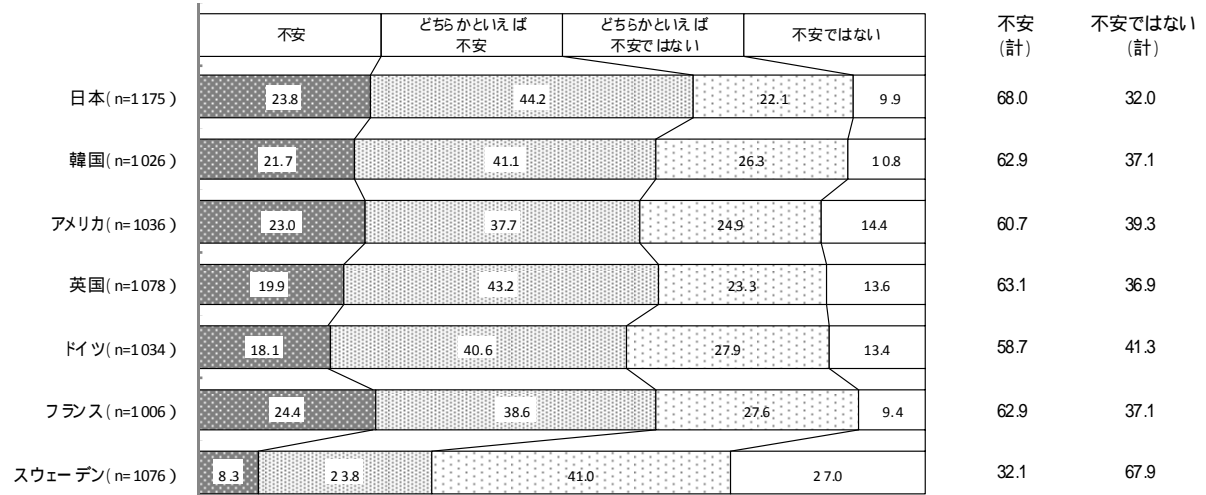
(i) 社会の景気動向はどうか

(%)



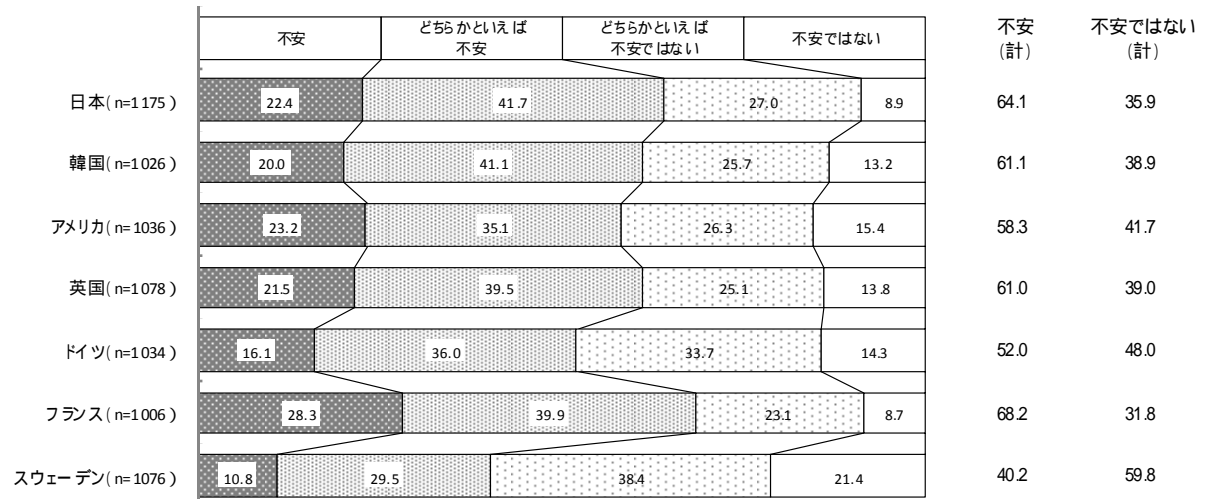
(j) 仕事と家庭生活の両立はどうか

(%)



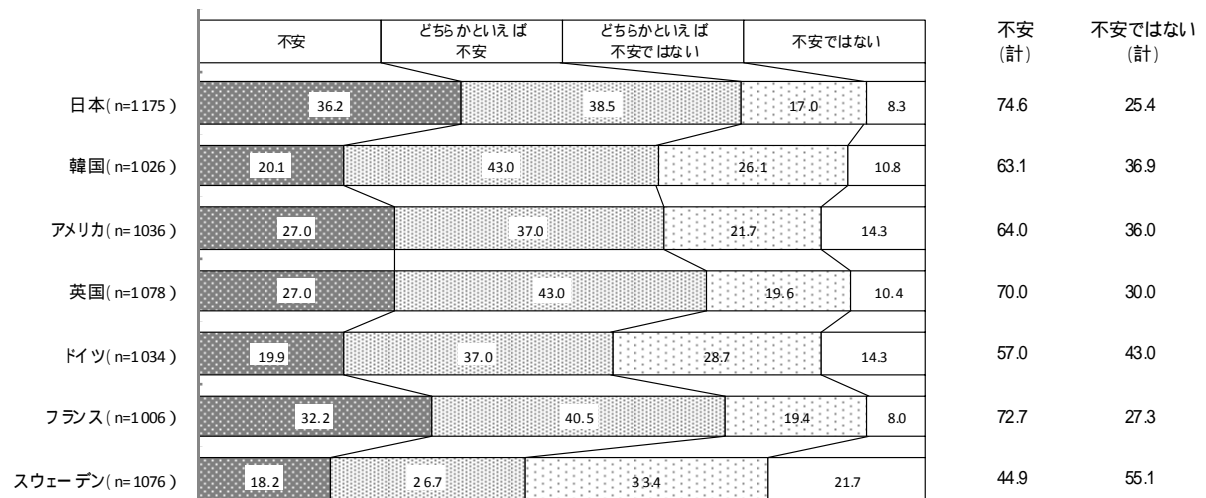
(k) 健康・体力面はどうか

(%)



(l) そもそも就職できるのか・仕事を続けられるのか

(%)



第5章 学校関係

1 学校に通う意義・評価

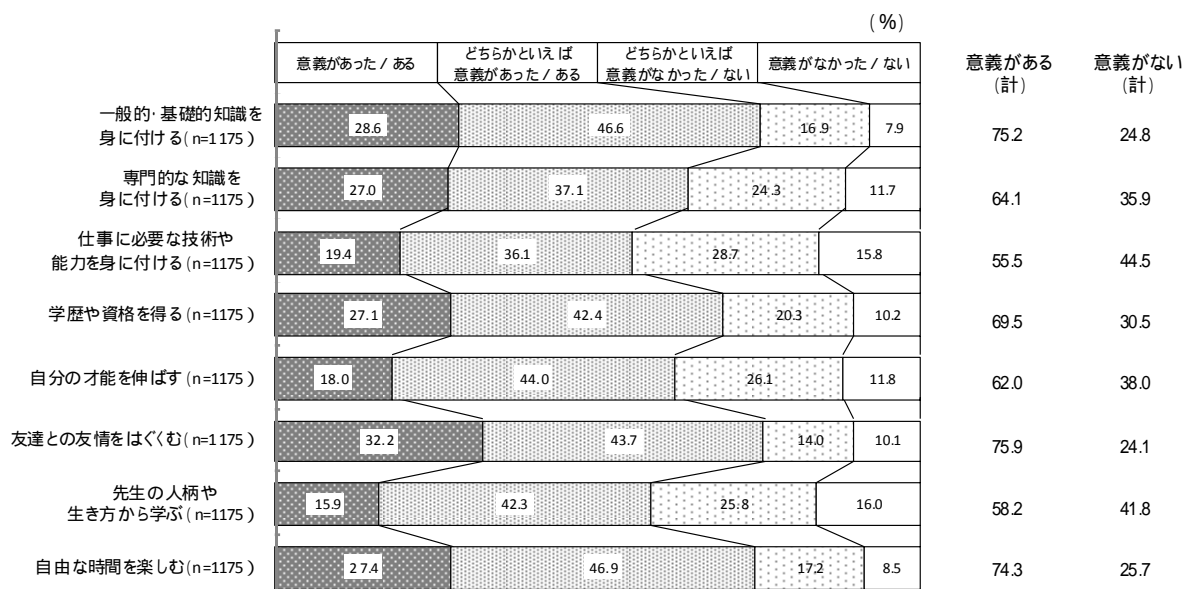
(1) 学校に通う意義

Q50 あなたにとっての学校に通うことの意義についてうかがいます。現在通っている学校について、以下の中からあてはまると思われるものをそれぞれ1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ) ※在学者が対象

あなたにとっての学校に通うことの意義についてうかがいます。最後に通った学校について、以下の中からあてはまると思われるものをそれぞれ1つ選んでください。

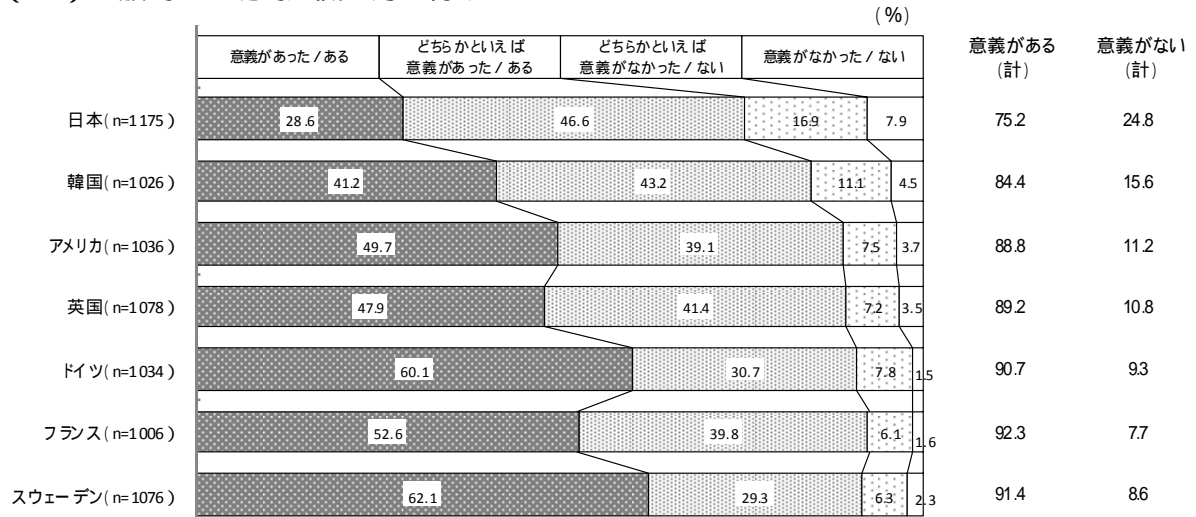
(回答はそれぞれ1つずつ) ※卒業・中退者が対象

学校に通う意義について日本の若者に聞いたところ、「友達との友情をはぐくむ」(75.9%)、「一般的・基礎的知識を身に付ける」(75.2%)、「自由な時間を楽しむ」(74.3%)の3項目は、『意義があった(ある)』(「意義があった(ある)」+「どちらかといえば意義があった(ある)」)が7割以上を占めている。

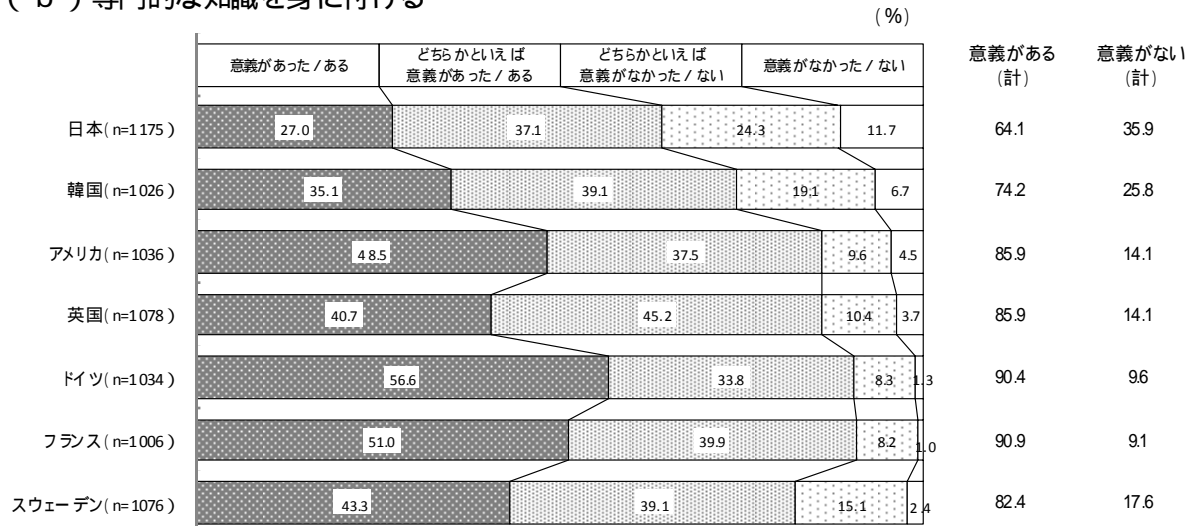


【国別】

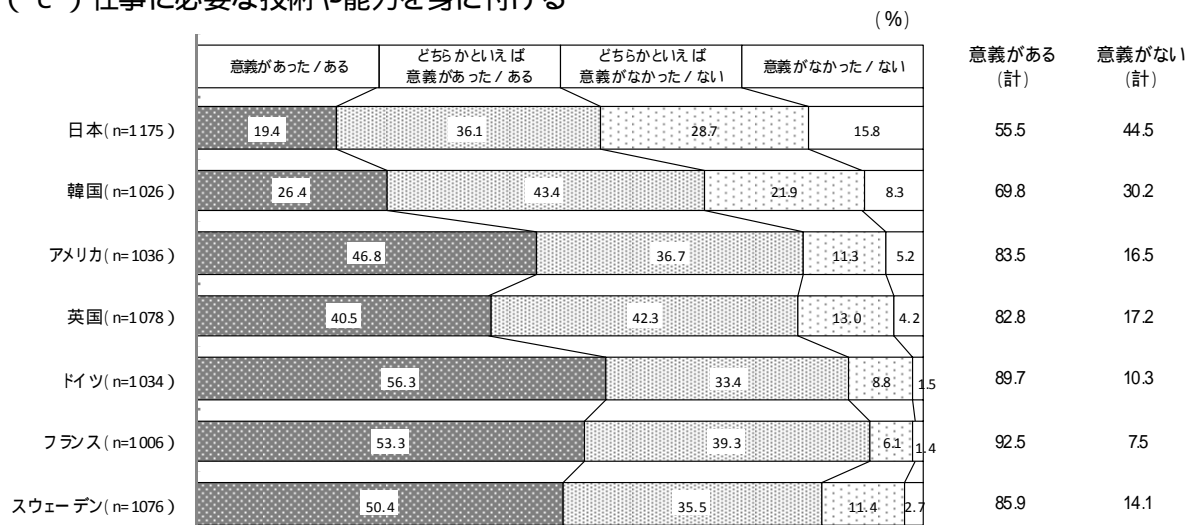
(a) 一般的・基礎的知識を身に付ける



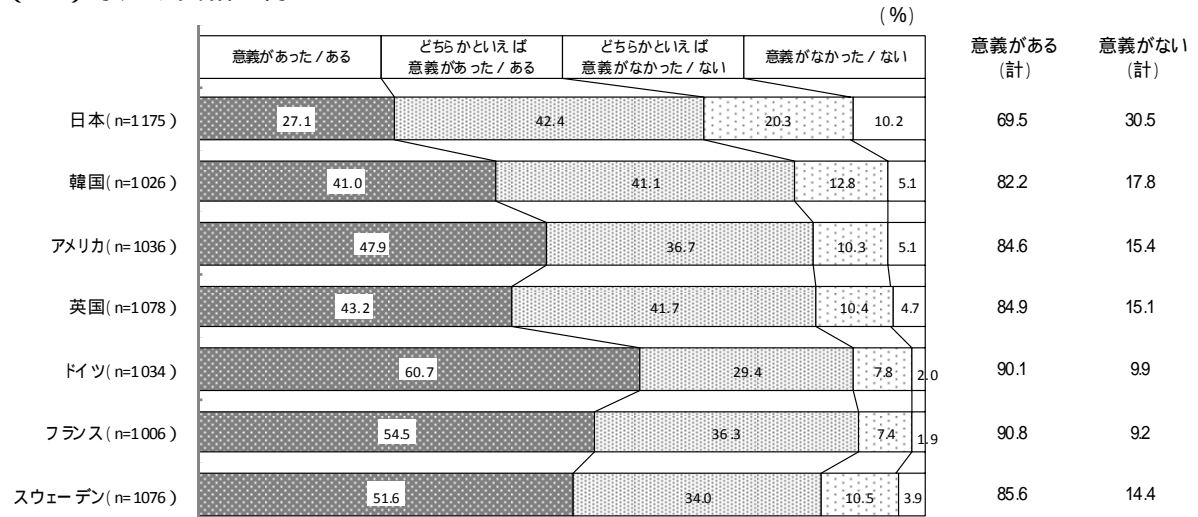
(b) 専門的な知識を身に付ける



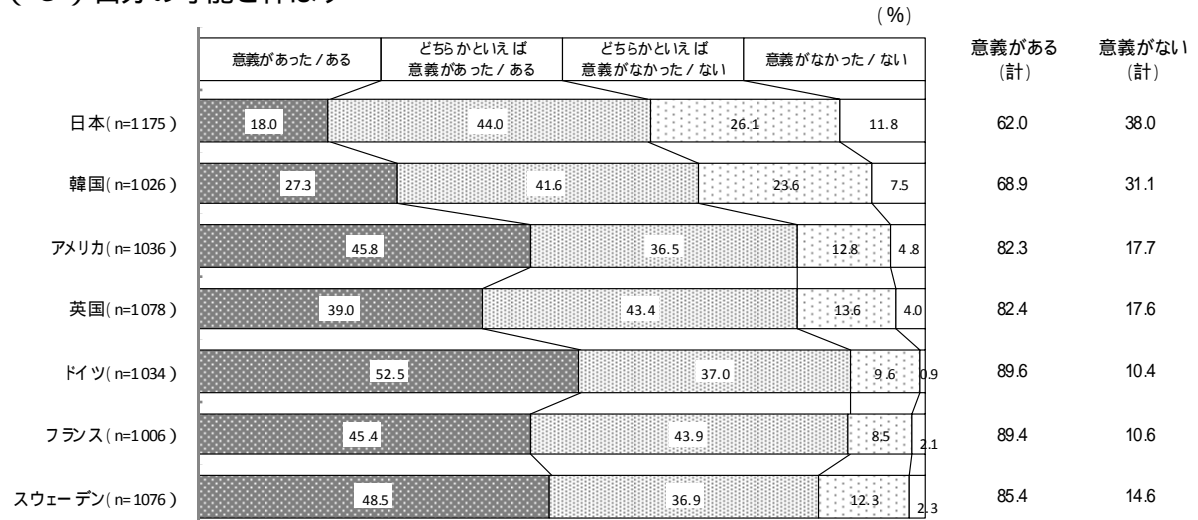
(c) 仕事に必要な技術や能力を身に付ける



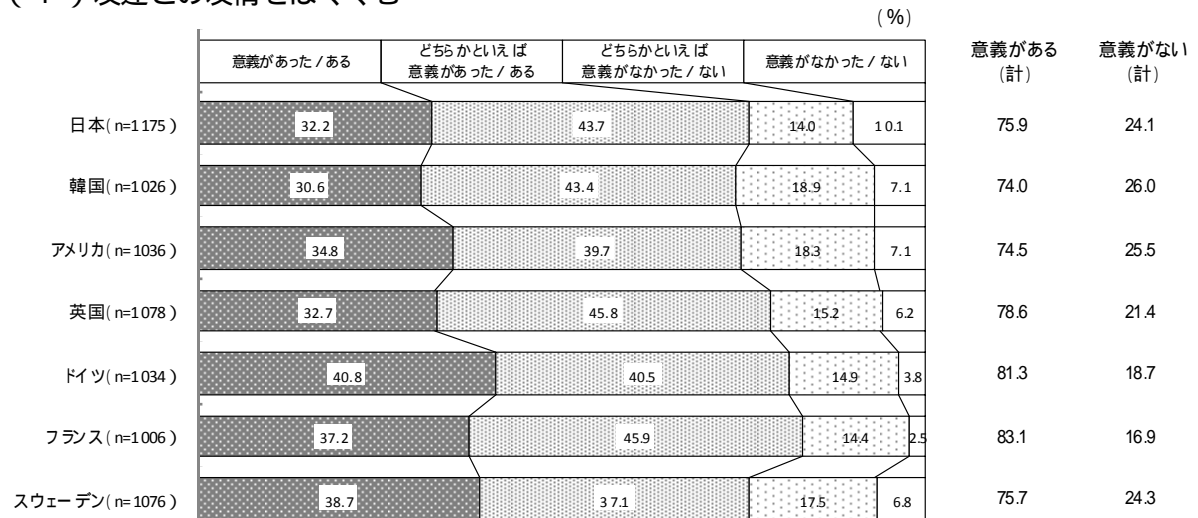
(d) 学歴や資格を得る



(e) 自分の才能を伸ばす

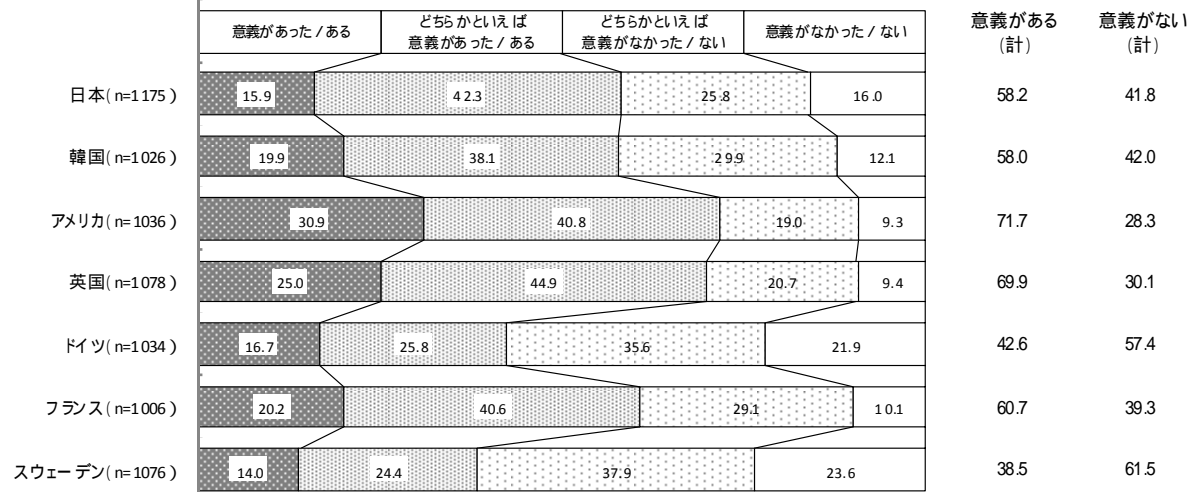


(f) 友達との友情をはぐくむ



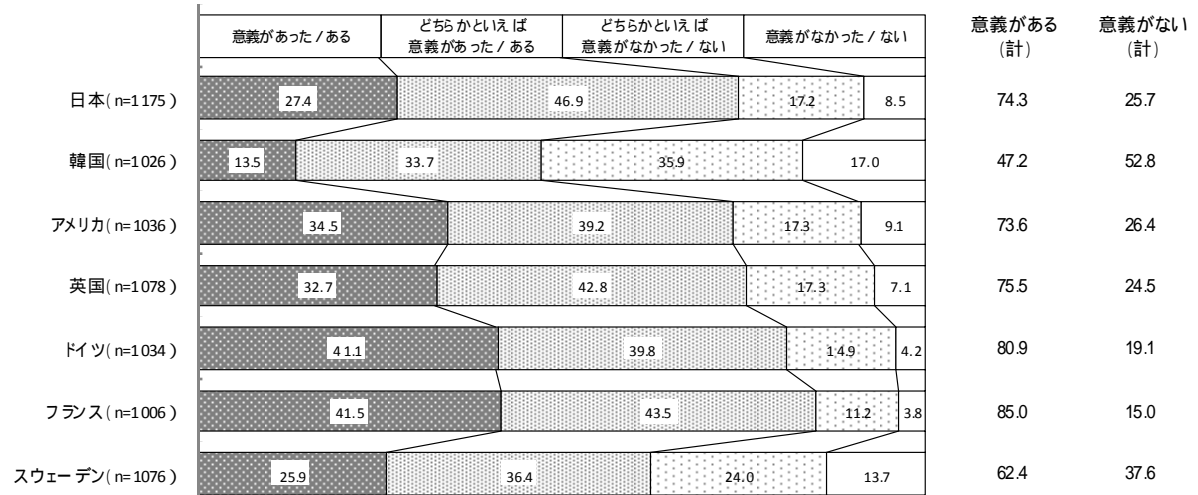
(g) 先生の人柄や生き方から学ぶ

(%)



(h) 自由な時間を楽しむ

(%)

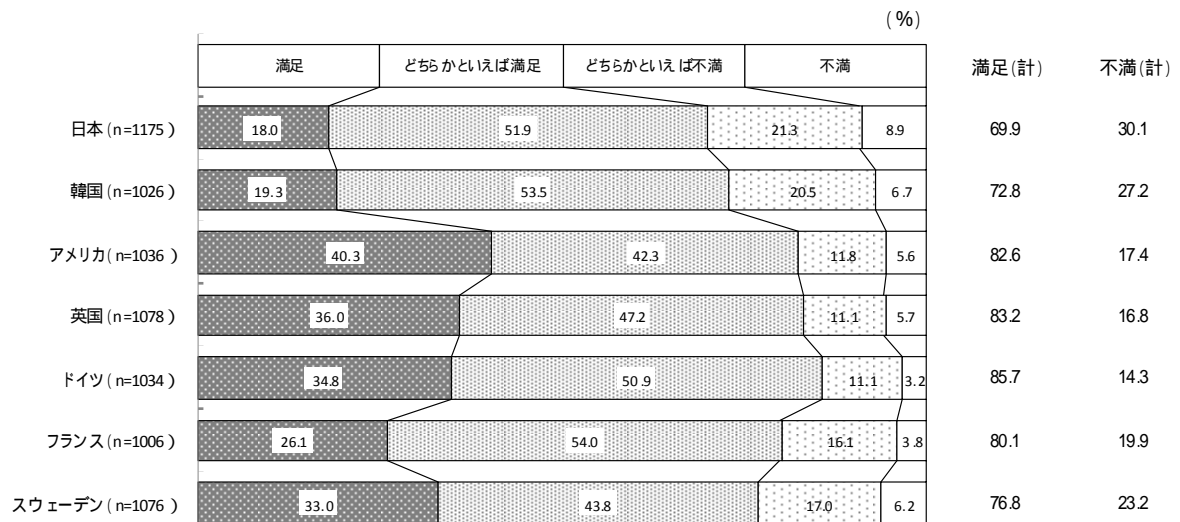


(2) 学校生活の満足度

Q51 あなたは、学校生活に満足していますか、それとも不満ですか。現在、学校へ行っていない方は、学校に行っていた時のことをお答えください。(回答は1つ)

日本の若者の学校生活への満足度をみると、学校生活に『満足』が **69.9%** (『満足』 **18.0%** + 「どちらかといえば満足」 **51.9%**) である。

7か国比較で見ると、いずれの国でも『満足』が多数を占めており、『満足』と回答した人の割合はドイツ (**85.7%**)、英国 (**83.2%**)、アメリカ (**82.6%**)、フランス (**80.1%**) の4か国ではいずれも8割台である。スウェーデン (**76.8%**) 及び韓国 (**72.8%**) は7割台であった。



2 進学や費用負担

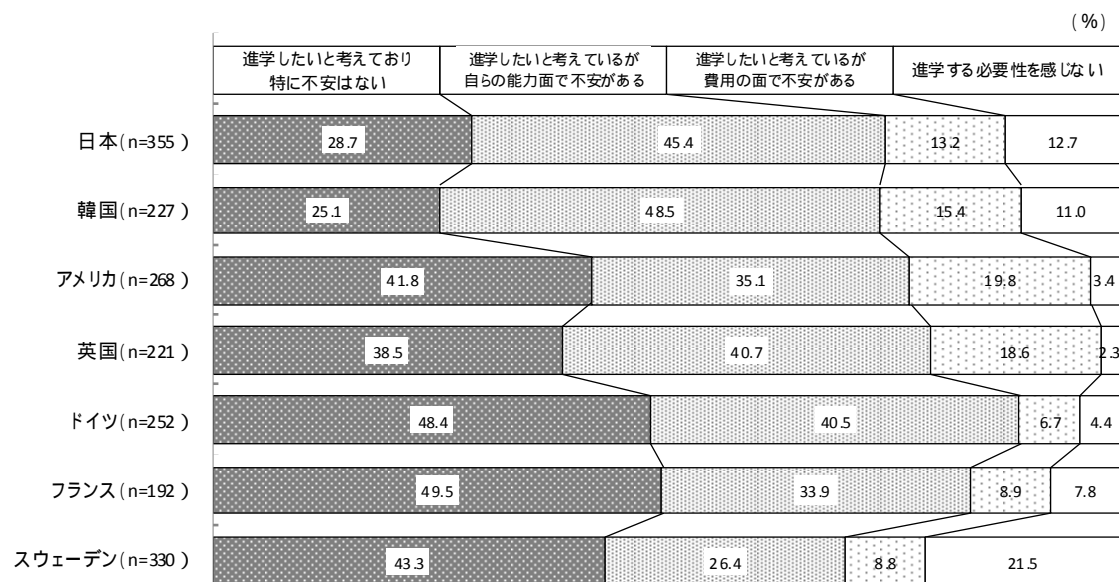
(1) 大学など(高等教育機関)への進学について

Q52 大学など(高等教育機関)への進学について、あなたの考えに近いのは次のうちどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(回答は1つ)

日本の若者に進学についての考えについて聞いたところ、「進学したいと考えているが、自らの能力面で不安がある」が **45.4%**と最も高い。次いで「進学したいと考えており、特に不安はない」(**28.7%**)、「進学したいと考えているが、費用の面で不安がある」(**13.2%**)の順となっている。「進学する必要性を感じない」のは **12.7%**である。

7か国比較で見ると、日本同様に韓国と英国が「進学したいと考えているが、自らの能力面で不安がある」(韓国 **48.5%**、英国 **40.7%**)が最も高い。

一方、アメリカ、ドイツ、フランス、スウェーデンは「進学したいと考えており、特に不安はない」(アメリカ **41.8%**、ドイツ **48.4%**、フランス **49.5%**、スウェーデン **43.3%**)と回答した人の割合が最も高い。



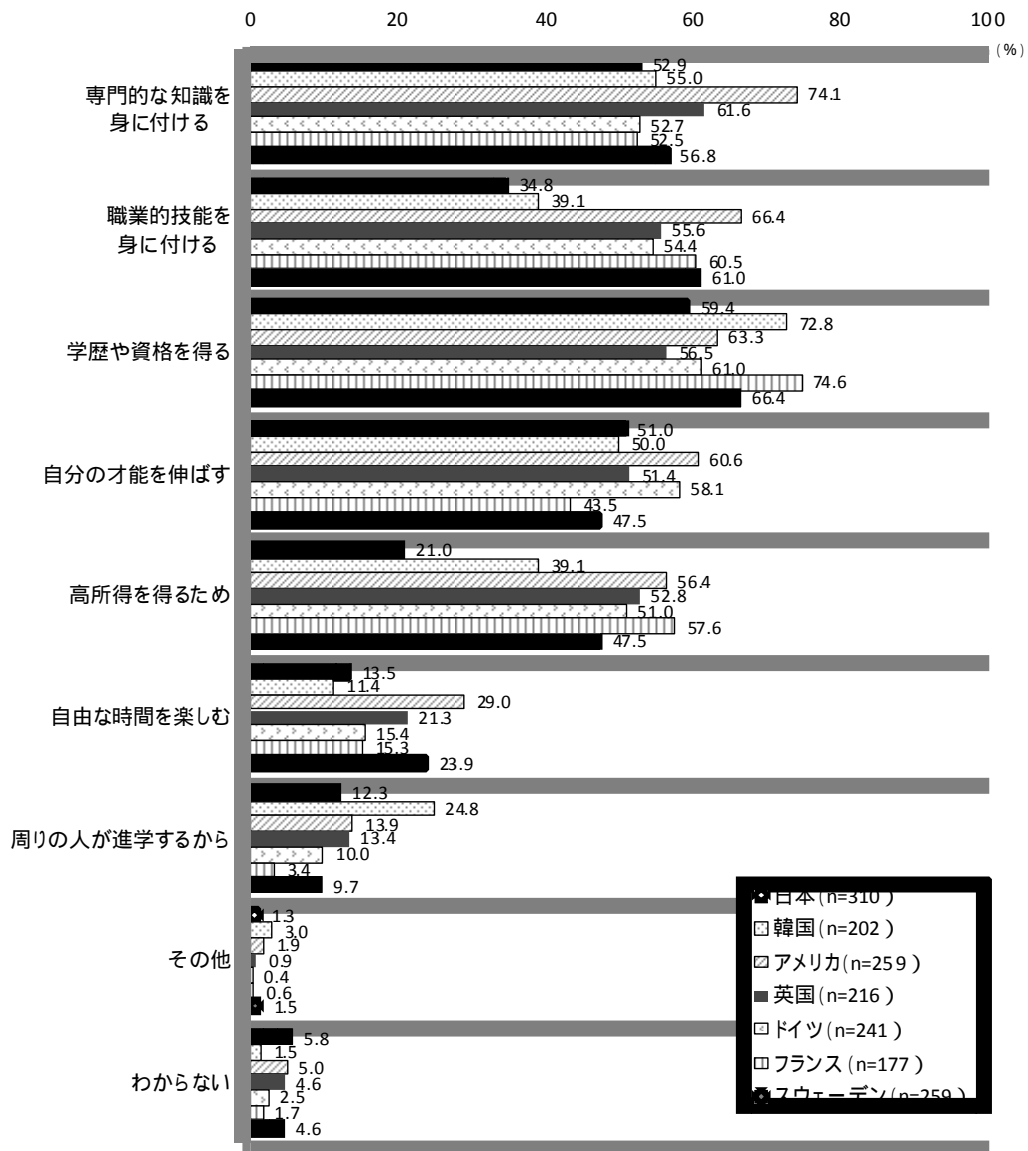
(2) 進学目的

Q53 進学のはめは何ですか。この中であてはまるものがありましたら、いくつでも選んでください。(回答はいくつでも)

※Q52で「進学したい」と回答した人が対象

日本の若者に進学目的について聞いたところ、「学歴や資格を得る」が59.4%で最も高く、以下「専門的な知識を身に付ける」(52.9%)、「自分の才能を伸ばす」(51.0%)、「職業的スキルを身に付ける」(34.8%)、「高所得を得るため」(21.0%)の順となっている。

7か国比較で見ると、日本同様、韓国、ドイツ、フランス、スウェーデンでも「学歴や資格を得る」(韓国72.8%、ドイツ61.0%、フランス74.6%、スウェーデン66.4%)が最も高い。一方、アメリカ及び英国は「専門的な知識を身に付ける」(アメリカ74.1%、英国61.6%)が最も高い。

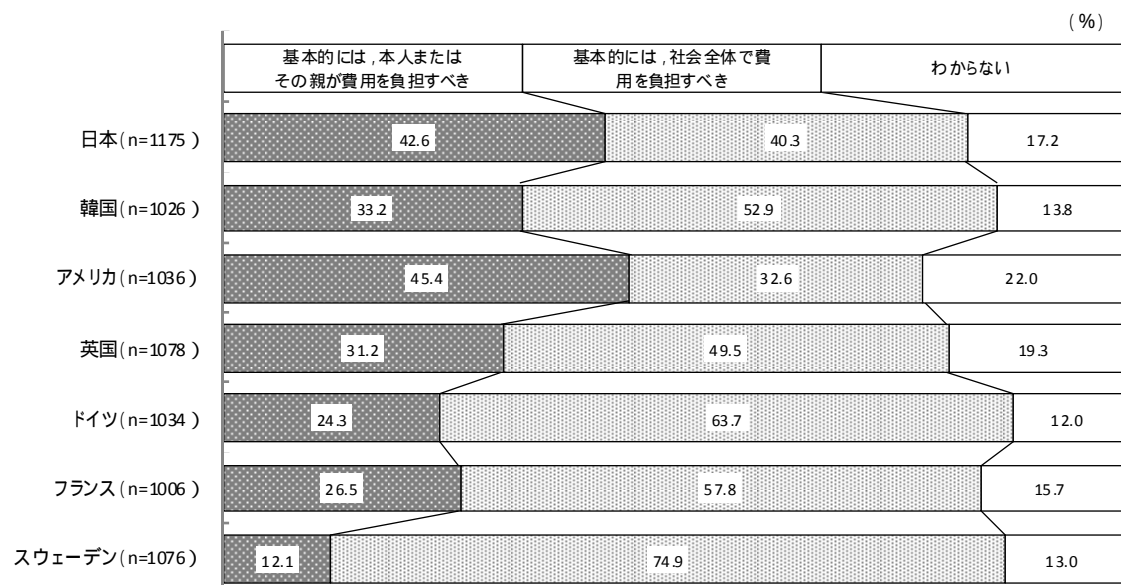


(3) 教育費の負担

Q54 教育にかかる費用を負担することについて、あなたの考えに近いのは次のうちどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(回答は1つ)

日本の若者に教育にかかる費用負担について聞いたところ、「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべき」が**42.6%**で最も高いものの、「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」(**40.3%**)も4割台であった。

7か国比較で見ると、日本同様、アメリカでも「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべき」(**45.4%**)が最も高い。一方、韓国、英国、ドイツ、フランス、スウェーデンは「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」(韓国**52.9%**、英国**49.5%**、ドイツ**63.7%**、フランス**57.8%**、スウェーデン**74.9%**)が最も高い。



第6章 家庭関係

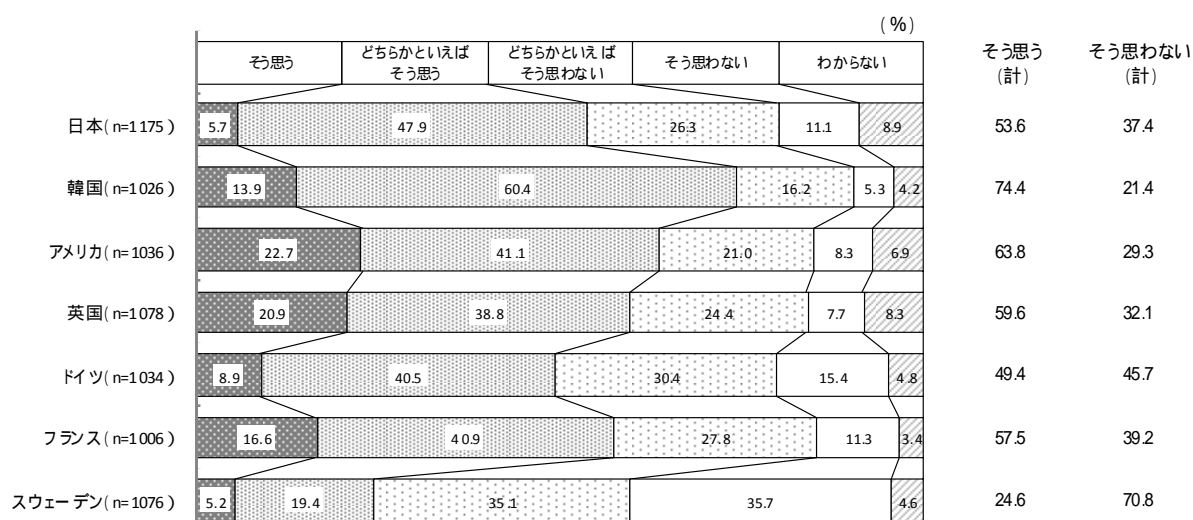
1 親子関係

(1) 親子関係に関する意識

Q55 あなたは次のような考え方についてどう思いますか。(回答は1つ)

日本の若者に親の意見にはできる限り従うべきかを聞いたところ、『そう思う』が **53.6%** (「そう思う」**5.7%** + 「どちらかといえばそう思う」**47.9%**) である。

7か国比較で見ると、親の意見にはできる限り従うべきかについて『そう思う』と回答した人の割合は、韓国 (**74.4%**) が7割台で、アメリカ (**63.8%**) が6割台、英国 (**59.6%**)、フランス (**57.5%**)、日本 (**53.6%**) が5割台、次いでドイツ (**49.4%**)、スウェーデン (**24.6%**) の順となっている。

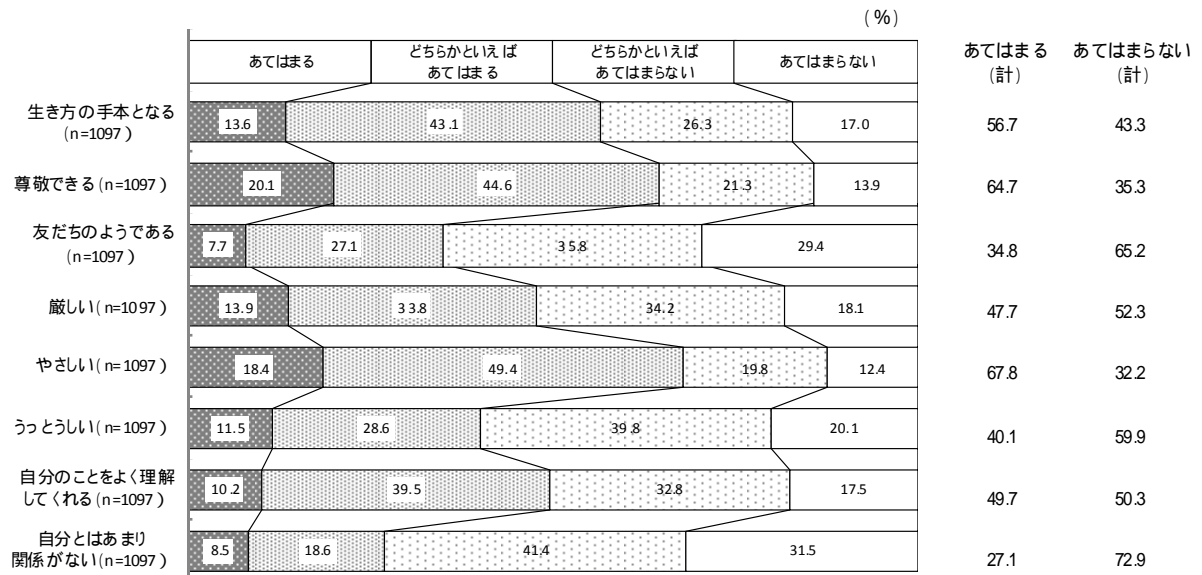


(2) 親のイメージ

Q56 あなたにとって、あなたのお父さんはどのような存在ですか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)

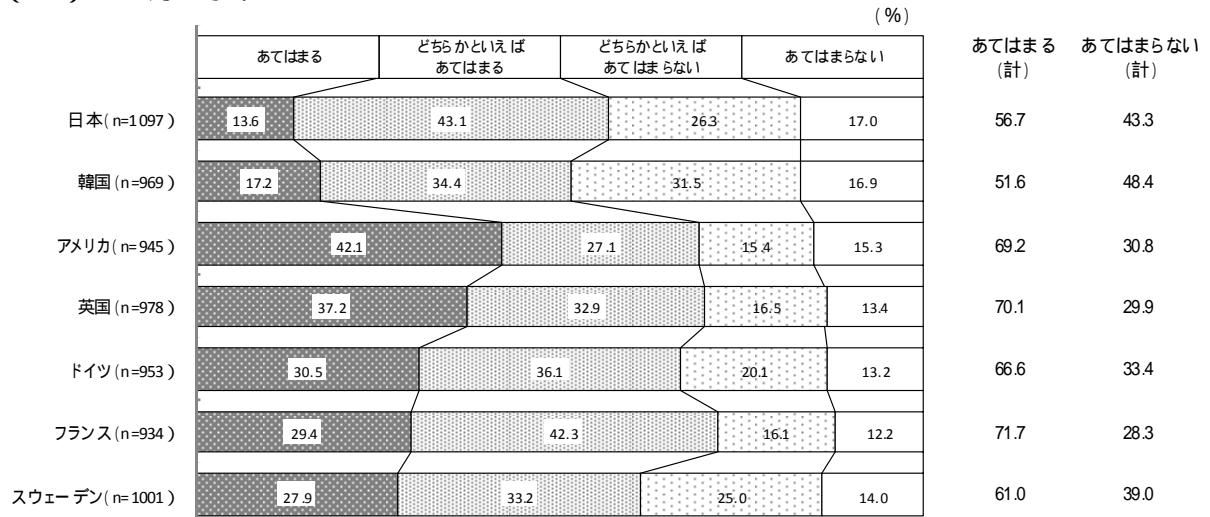
※父親が健在な人が対象

父親は自身にとってどのような存在か日本の若者に聞いたところ、「やさしい」(67.8%)、「尊敬できる」(64.7%)、「生き方の手本となる」(56.7%)の3項目は、『あてはまる』(「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」)が5割以上を占めている。

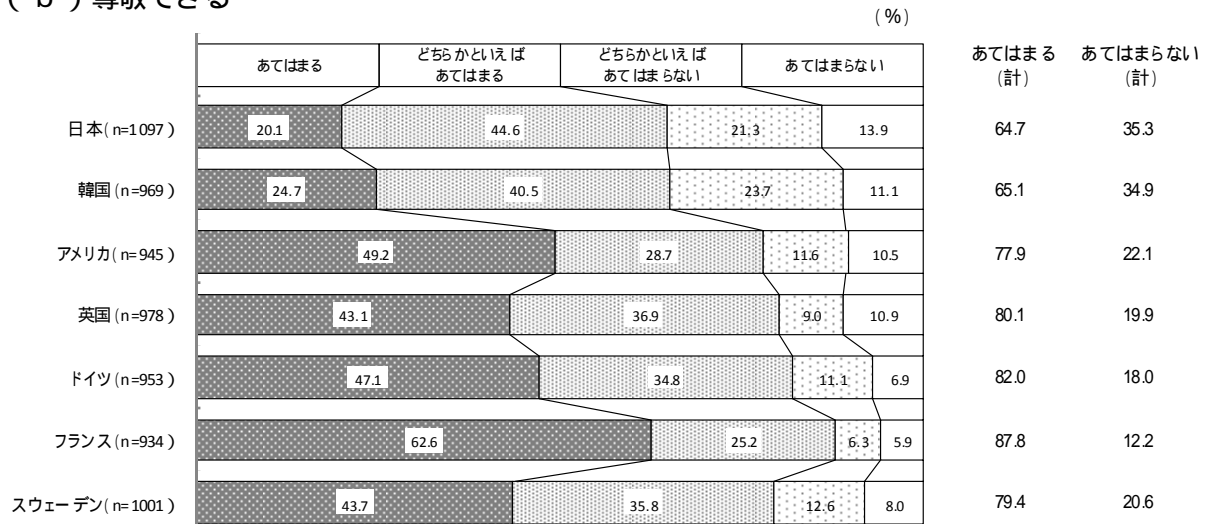


【国別】

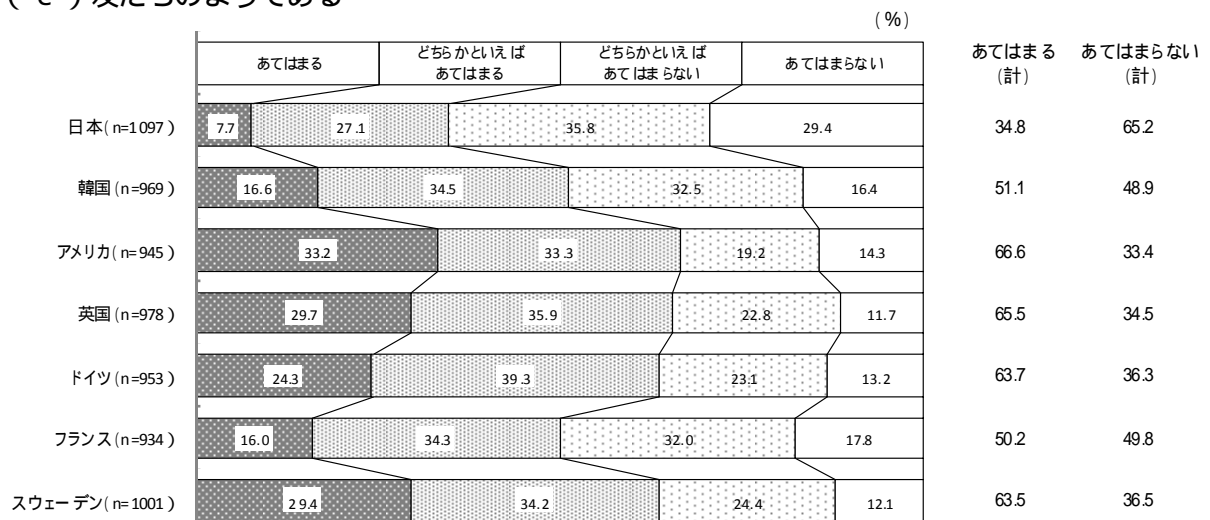
(a) 生き方の手本となる



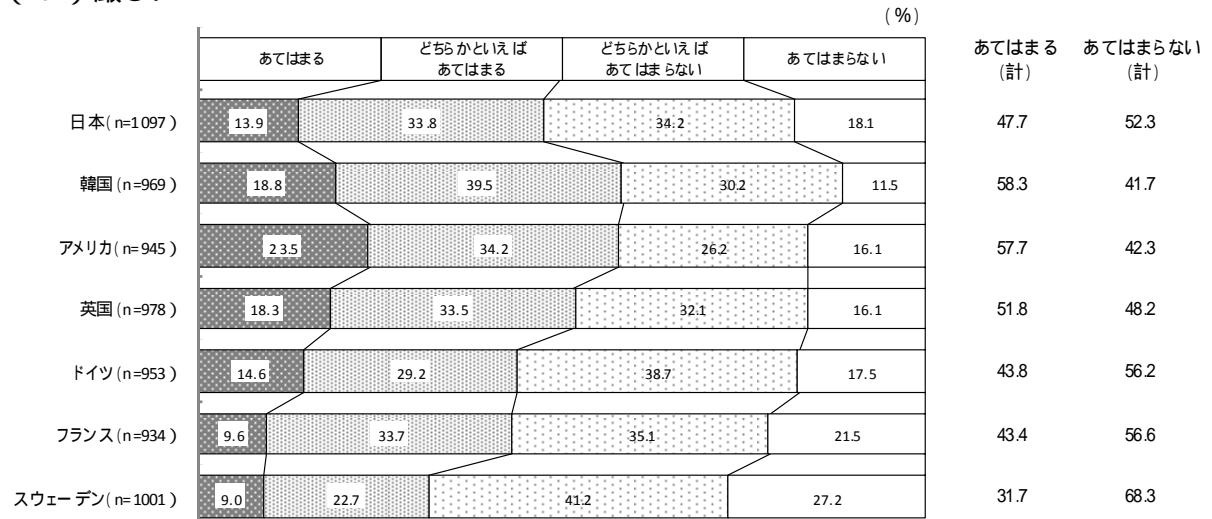
(b) 尊敬できる



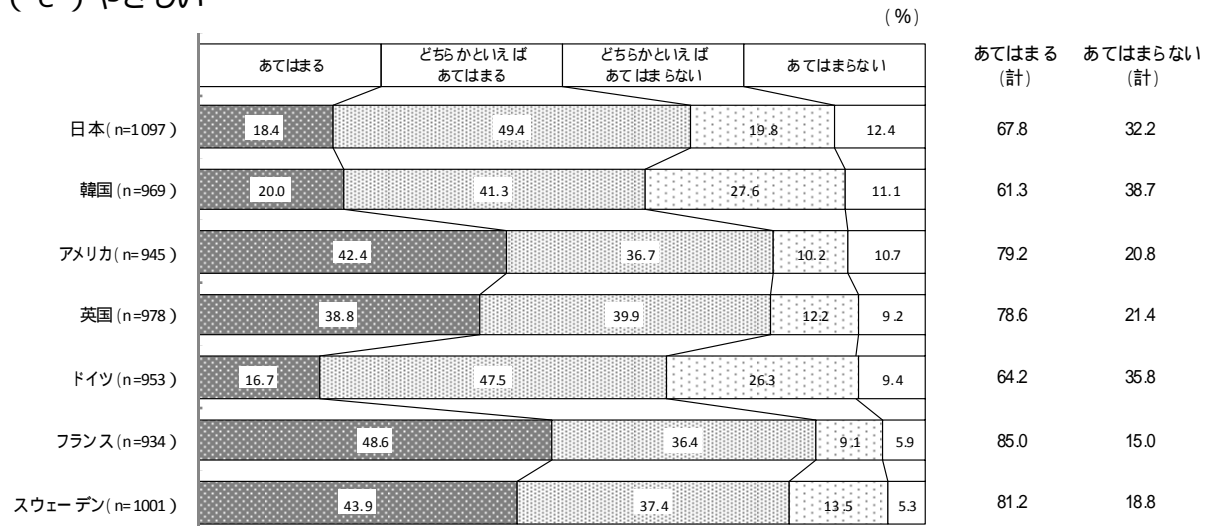
(c) 友だちのようである



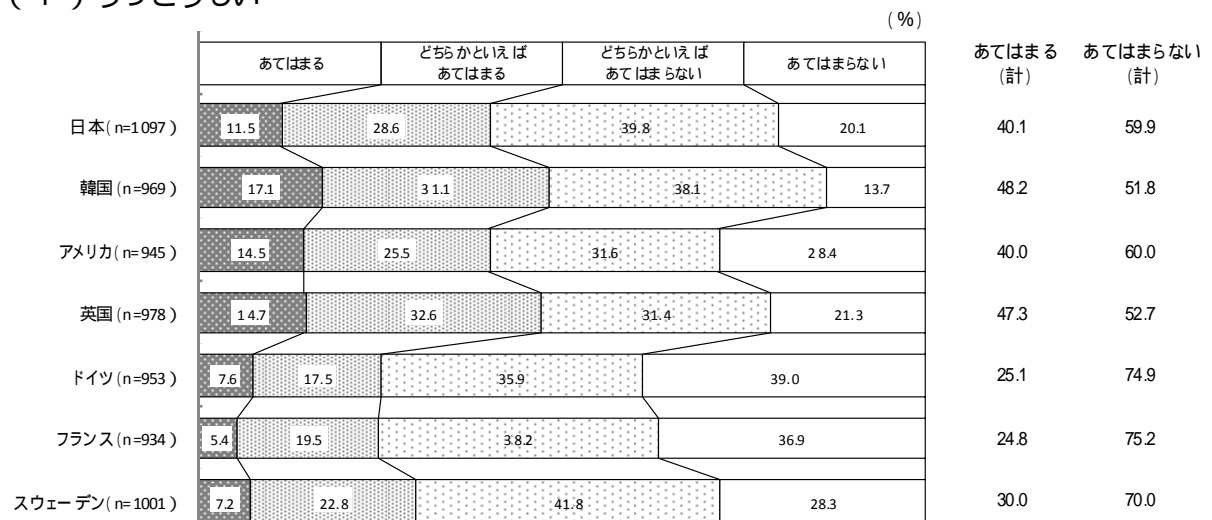
(d) 厳しい



(e) やさしい

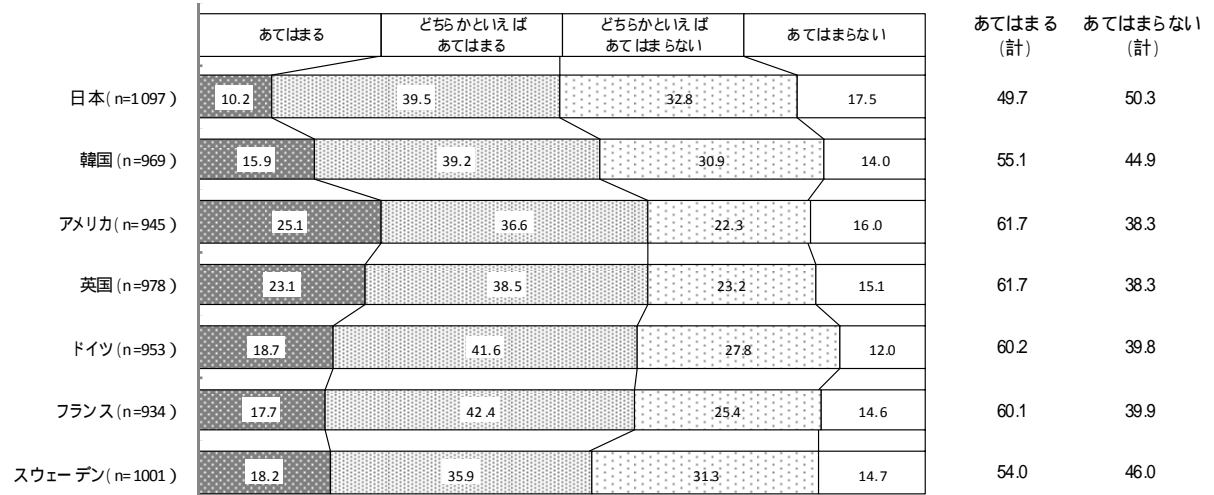


(f) うっとうしい



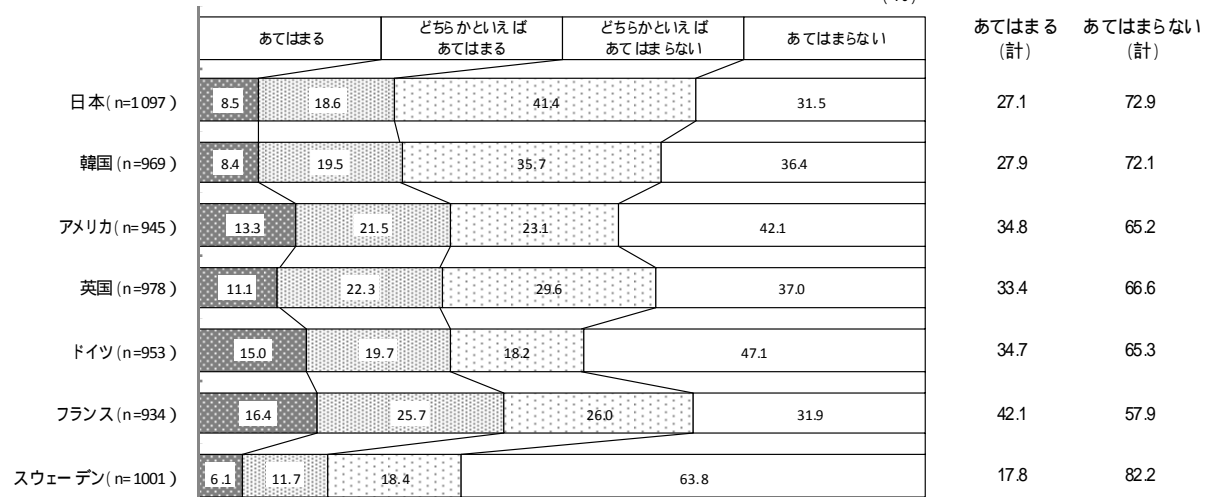
(g) 自分のことをよく理解してくれる

(%)



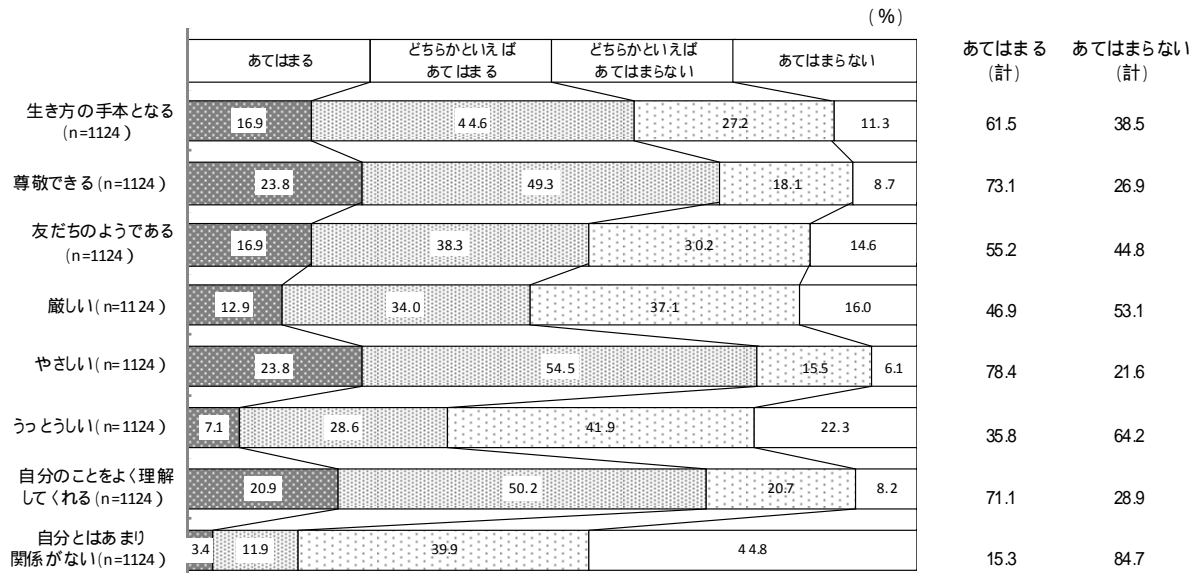
(h) 自分とはあまり関係がない

(%)



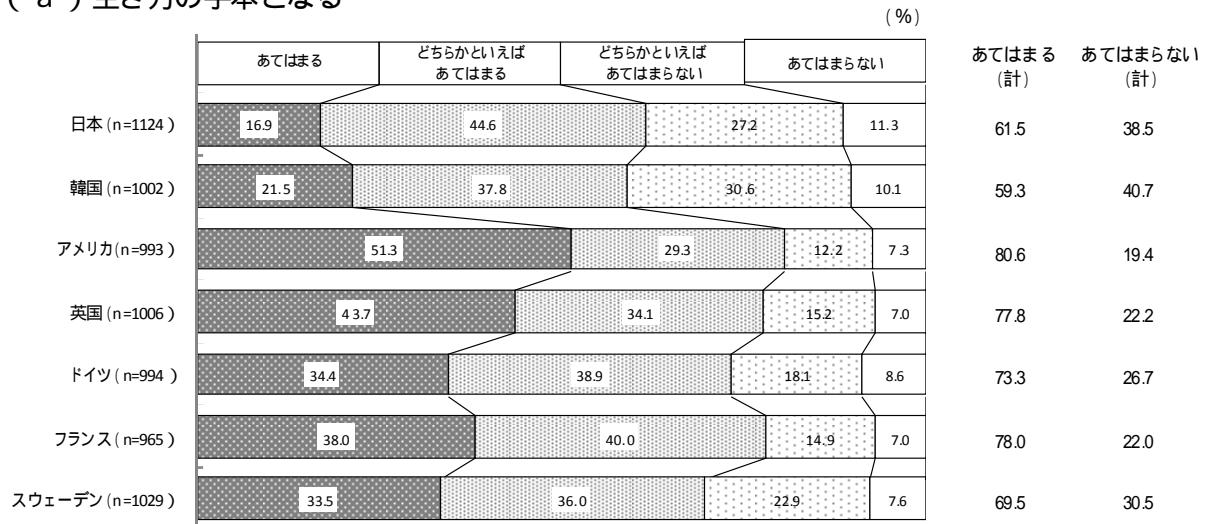
Q57 あなたにとって、あなたのお母さんはどのような存在ですか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)
 ※母親が健在な人が対象

母親は自身にとってどのような存在か日本の若者に聞いたところ、「やさしい」(78.4%)、「尊敬できる」(73.1%)、「自分のことをよく理解してくれる」(71.1%)の3項目は、『あてはまる』(「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」)が7割以上を占めている。

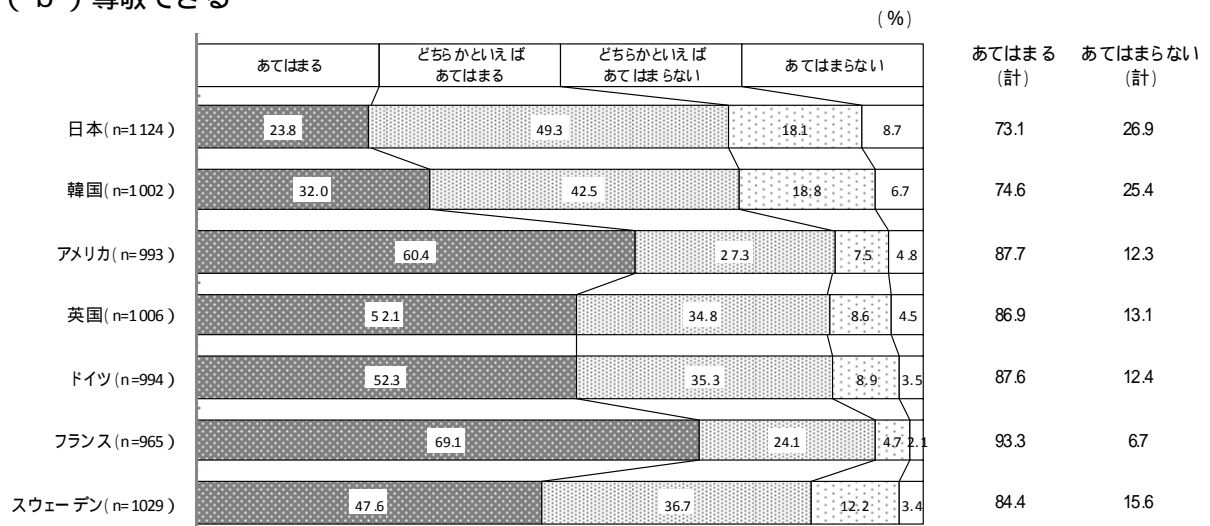


【国別】

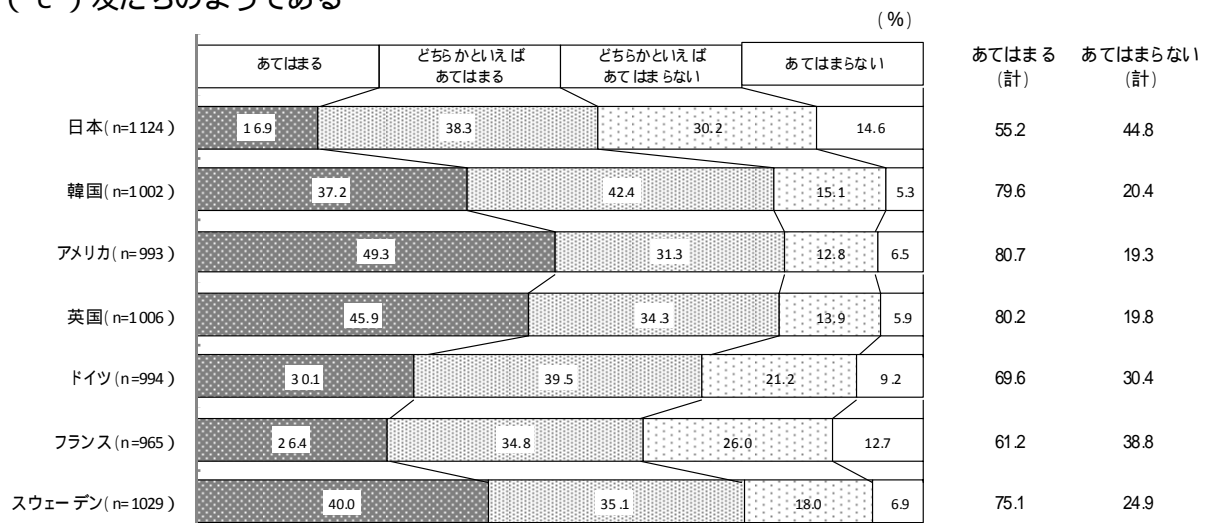
(a) 生き方の手本となる



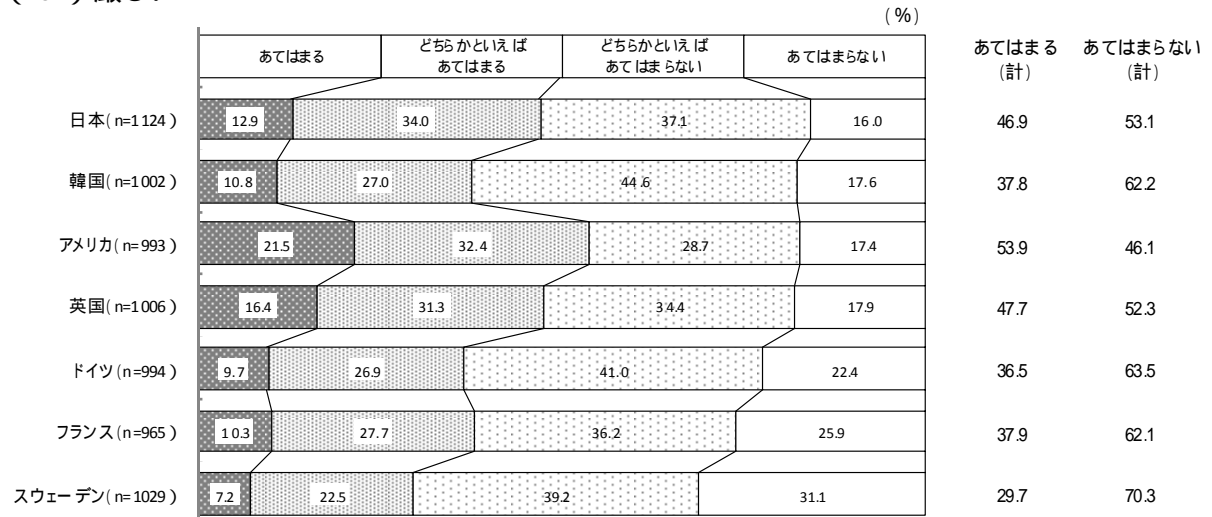
(b) 尊敬できる



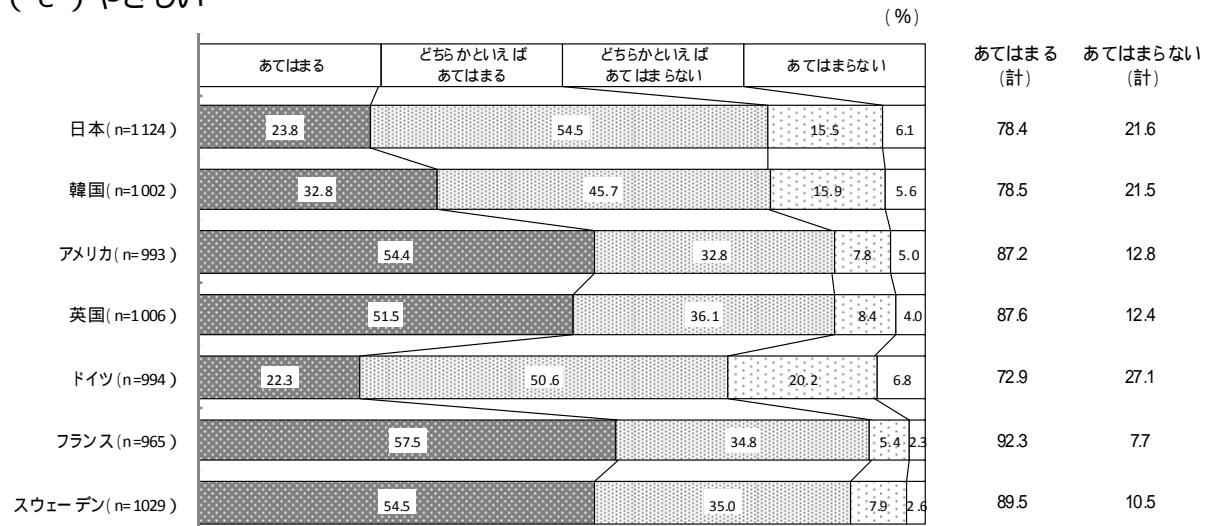
(c) 友だちのようである



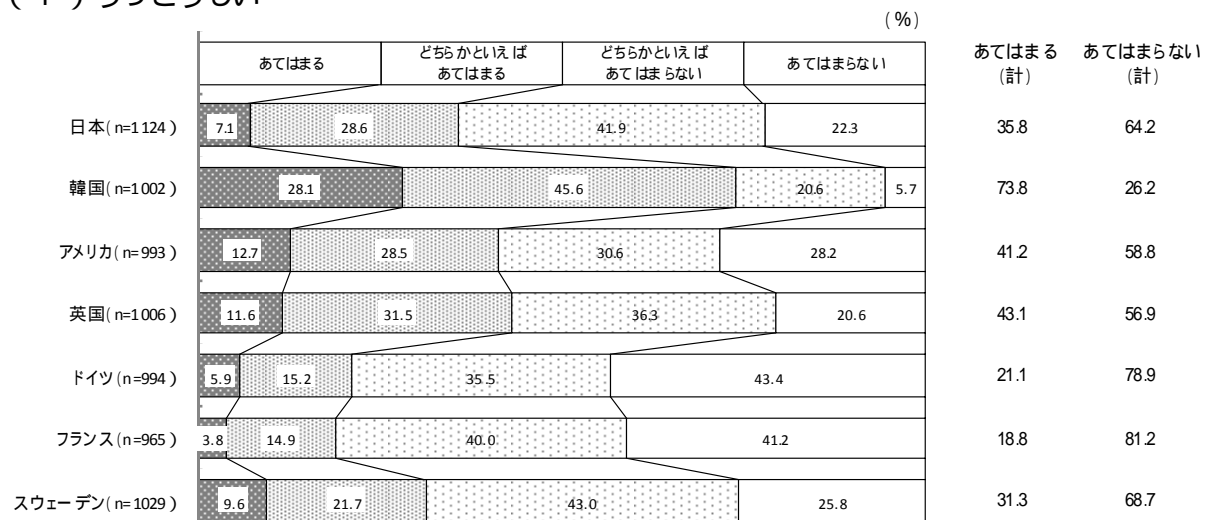
(d) 厳しい



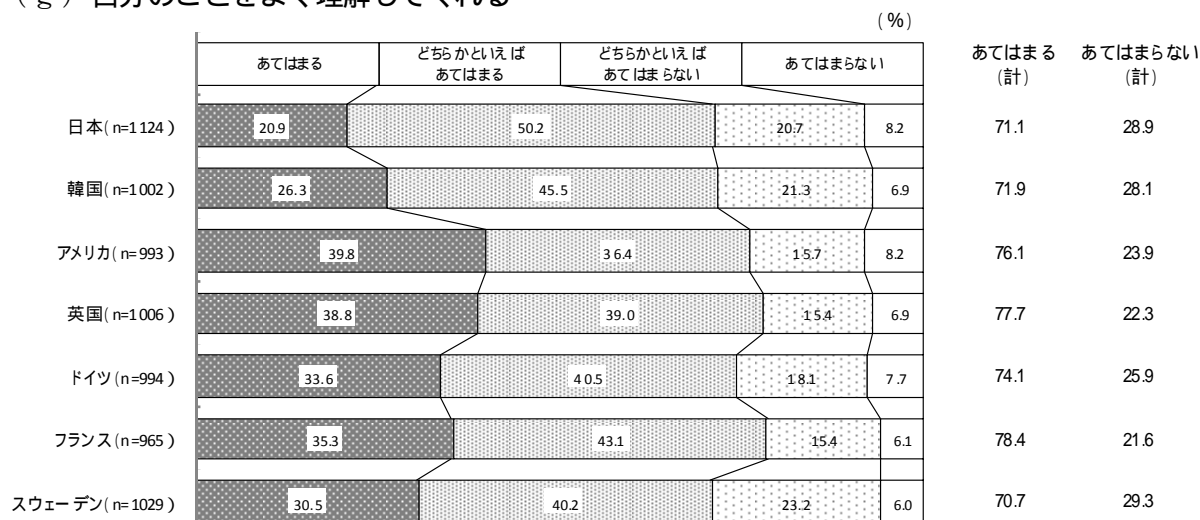
(e) やさしい



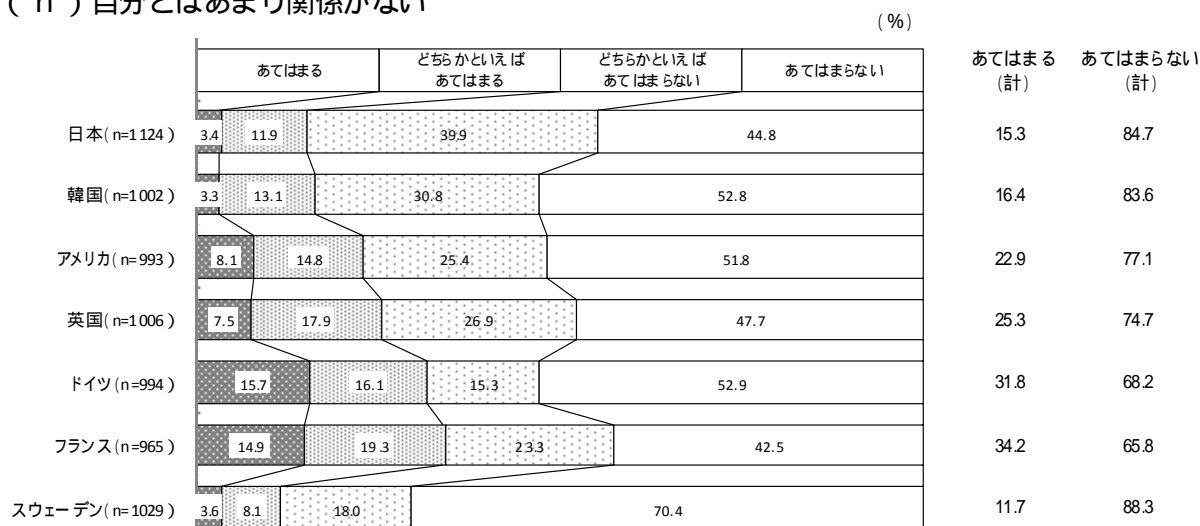
(f) うっとうしい



(g) 自分のことをよく理解してくれる



(h) 自分とはあまり関係がない

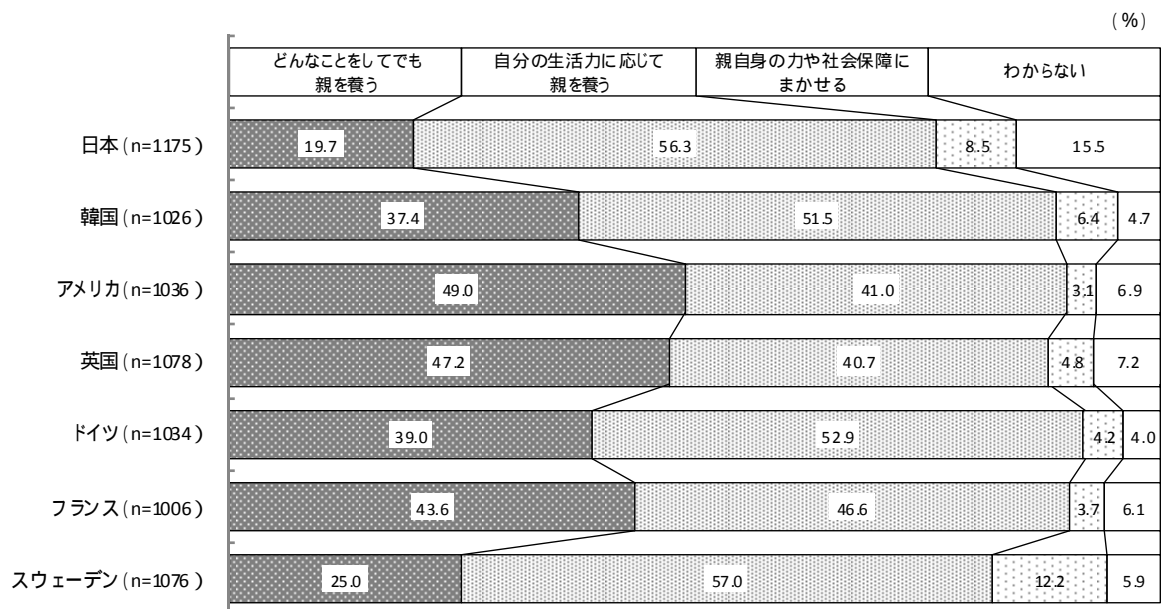


(3) 年老いた親の扶養

Q58 あなたは、年老いた親を養うことについてどのように思いますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。(回答は1つ)

日本の若者の年老いた親を養うことについての意識をみると、「自分の生活力に応じて親を養う」が**56.3%**で最も高く、以下「どんなことをしてでも親を養う」(19.7%)、「親自身の力や社会保障にまかせる」(8.5%)の順となっている。

7か国比較で見ると、「自分の生活力に応じて親を養う」と回答した人の割合は、スウェーデン(57.0%)が最も高く、日本(56.3%)、ドイツ(52.9%)、韓国(51.5%)、フランス(46.6%)、アメリカ(41.0%)、英国(40.7%)の順となっている。一方、「どんなことをしてでも親を養う」と回答した人の割合は、アメリカ(49.0%)、英国(47.2%)、フランス(43.6%)で4割台、韓国(37.4%)、ドイツ(39.0%)で3割台、以下スウェーデン(25.0%)、日本(19.7%)の順となっている。

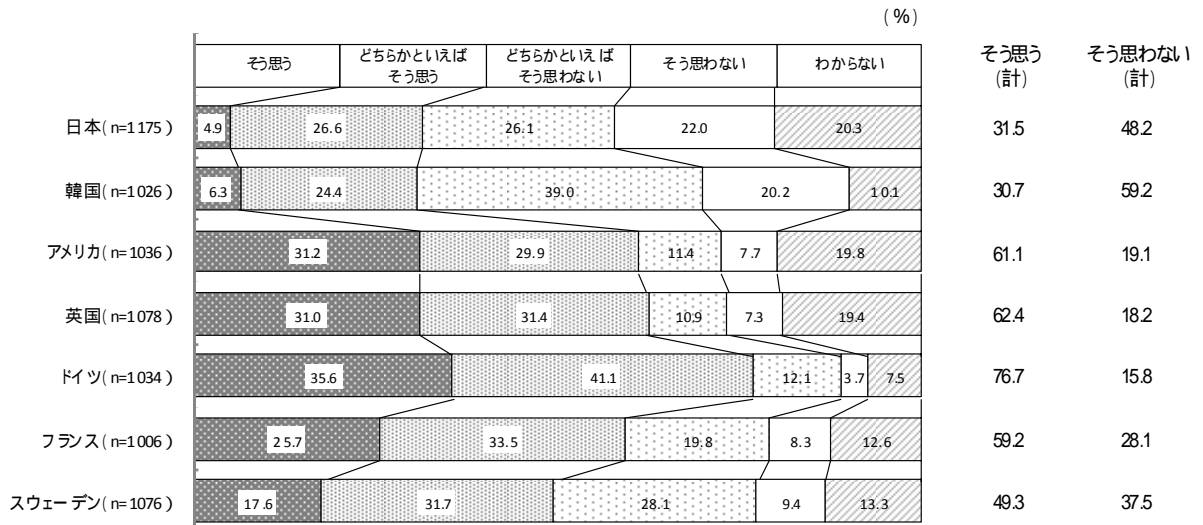


(4) 自分自身の老後

Q59 あなたは、自分の子どもに老後の面倒をみてもらいたいと思いますか。この中から1つだけ選んでください。(回答は1つ)

日本の若者に自分の子どもに老後の面倒をみてもらいたいかを聞いたところ、『そう思う』は31.5%（「そう思う」4.9%+「どちらかといえばそう思う」26.6%）である。

7か国比較で見ると、『そう思う』と回答した人の割合は、ドイツが76.7%で最も高く、英国(62.4%)、アメリカ(61.1%)、フランス(59.2%)、スウェーデン(49.3%)、日本(31.5%)、韓国(30.7%)の順となっている。



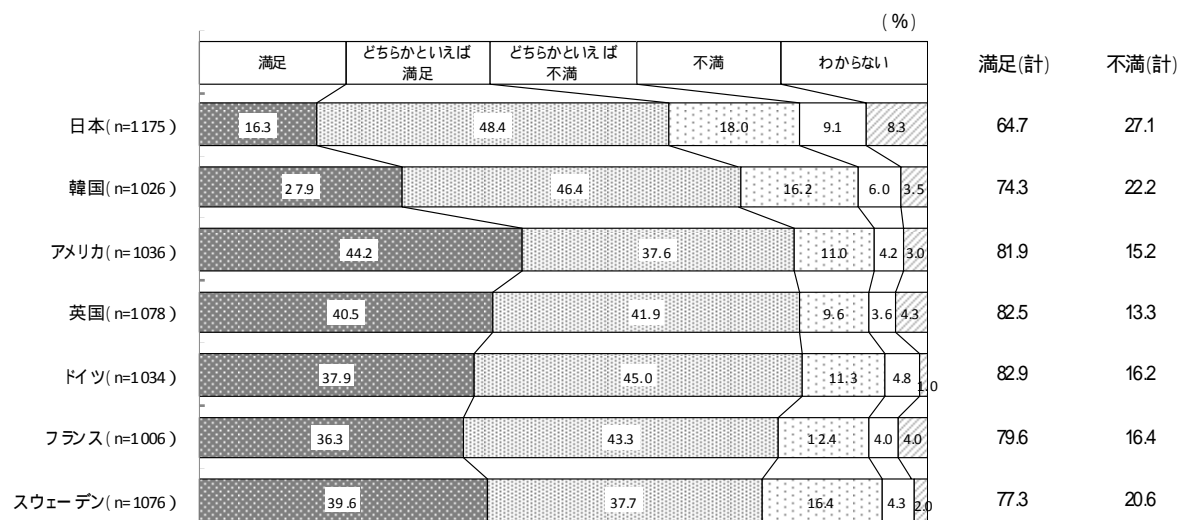
2 家庭生活の満足度

(1) 家庭生活の満足度

Q 60 あなたは、家庭生活に満足していますか、それとも不満ですか。(回答は1つ)

日本の若者の家庭生活への満足度をみると、家庭生活に『満足』が **64.7%** (『満足』 **16.3%** + 『どちらかといえば満足』 **48.4%**) である。

7か国比較で見ると、いずれの国でも『満足』が多数を占めており、『満足』と回答した人の割合はドイツ (**82.9%**) が最も高く、英国 (**82.5%**)、アメリカ (**81.9%**)、フランス (**79.6%**)、スウェーデン (**77.3%**)、韓国 (**74.3%**)、日本 (**64.7%**) の順となっている。



(2) 家庭生活での満足の内容

Q61 あなたは、家庭で生活をする上で、次の事に満足していますか。この中であてはまるものがありましたら、いくつでも選んでください。(回答はいくつでも)

日本の若者についてみると、家庭で生活する上で満足していることは、「家族が健康であること」が**44.3%**と最も高く、以下「家族のだんらんや会話」(**32.8%**)、「家庭内で争いごとがないこと」(**30.8%**)の順となっている。

他国を見ると、韓国では「兄弟姉妹と気があうこと」(**40.8%**)が最も高く、以下「家庭内で争いごとがないこと」(**38.5%**)、「家族が健康であること」(**37.7%**)の順となっている。

アメリカでは、日本と同様に「家族が健康であること」(**46.0%**)が最も高く、以下「家族のだんらんや会話」(**42.7%**)、「親や配偶者の愛情」(**38.6%**)の順となっている。

英国でも、日本、アメリカと同様に「家族が健康であること」(**45.6%**)が最も高く、以下「親や配偶者の愛情」(**38.1%**)、「家族のだんらんや会話」(**37.5%**)の順となっている。

ドイツでは、「家庭内で争いがないこと」(**51.2%**)が最も高く、以下「親や配偶者の愛情」(**49.5%**)、「家族が健康であること」(**46.5%**)の順となっている。

フランスでは、日本、アメリカ、英国と同様に「家族が健康であること」(**50.2%**)が最も高く、以下「親や配偶者の愛情」(**47.2%**)、「兄弟姉妹と気があうこと」(**41.6%**)の順となっている。

スウェーデンでは、日本、アメリカ、英国、フランスと同様に「家族が健康であること」(**54.6%**)が最も高く、以下「家の周囲の環境がよいこと」(**52.3%**)、「家が広いこと」(**46.1%**)の順となっている。

